

法学研究科 法学研究科 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法学系科目 ■専門科目	知的財産法II 木村 友久	集中	1	2	1
		1年			
	法律実務特講II 奥田・阿野・末廣	1学期	1	2	2
		1年			
■政策科学系科目 ■専門科目	現代政治論II 松尾 哲也	集中	1	2	3
		1年			
	都市環境論II 中園 哲	2学期	1	2	4
		1年			
都市計画論II 山脇 直祐	1学期	1	2	5	
	1年				
自治体政策論II 垣迫 裕俊	集中	1	2	6	
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専攻共通科目	法政総合演習	1学期	1	2	7
	法学研究科長 他	1年			
■法学系科目 ■専門基礎科目	法律文献調査	1学期	1	2	8
	重松 博之 他	1年			
■専門科目	憲法AIII	1学期	1	2	9
	植木 淳	1年			
	憲法AIV	2学期	1	2	10
	植木 淳	1年			
	憲法BIII	1学期	1	2	11
	中村 英樹	1年			
	憲法BIV	2学期	1	2	12
	中村 英樹	1年			
	行政法AIII	1学期	1	2	13
	岡本 博志	1年			
	行政法AIV	2学期	1	2	14
	岡本 博志	1年			
	行政法BIII	1学期	1	2	15
	福重 さと子	1年			
	行政法BIV	2学期	1	2	16
	福重 さと子	1年			
	行政法CIII	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法CIV	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法AIII	1学期	1	2	17
	矢澤 久純	1年			
	民法AIV	2学期	1	2	18
	矢澤 久純	1年			
	民法BIII	1学期	1	2	19
	福本 忍	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律学系科目 ■専門科目	民法BIV 福本 忍	2学期	1	2	20
		1年			
	民法CIII 小野 憲昭	1学期	1	2	21
		1年			
	民法CIV 小野 憲昭	2学期	1	2	22
		1年			
	民法DIII 休講	1学期	1	2	
		1年			
	民法DIV 休講	2学期	1	2	
		1年			
	商法AIII 今泉 恵子	1学期	1	2	23
		1年			
	商法AIV 今泉 恵子	2学期	1	2	24
		1年			
	商法BIII 高橋 衛	1学期	1	2	25
		1年			
	商法BIV 高橋 衛	2学期	1	2	26
		1年			
	民事訴訟法AIII 小池 順一	1学期	1	2	27
		1年			
民事訴訟法AIV 小池 順一	2学期	1	2	28	
	1年				
民事訴訟法BIII 休講	1学期	1	2		
	1年				
民事訴訟法BIV 中村 仁	1学期	1	2	29	
	1年				
刑法AIII 山本 光英	1学期	1	2	30	
	1年				
刑法AIV 山本 光英	2学期	1	2	31	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律学系科目 ■専門科目	刑法BIII 大杉 一之	1学期	1	2	32
		1年			
	刑法BIV 大杉 一之	2学期	1	2	33
		1年			
	刑事訴訟法III 休講		1	2	
		1年			
	刑事訴訟法IV 休講		1	2	
		1年			
	刑事学III 朴 元奎	1学期	1	2	34
		1年			
	刑事学IV 朴 元奎	2学期	1	2	35
		1年			
	労働法III 石田 信平	1学期	1	2	36
		1年			
	労働法IV 石田 信平	2学期	1	2	37
		1年			
	社会保障法III 津田 小百合	1学期	1	2	38
		1年			
	社会保障法IV 津田 小百合	2学期	1	2	39
		1年			
国際法III 二宮 正人	1学期	1	2	40	
	1年				
国際法IV 二宮 正人	2学期	1	2	41	
	1年				
日本法制史III 岡 邦信	1学期	1	2	42	
	1年				
日本法制史IV 岡 邦信	2学期	1	2	43	
	1年				
法哲学III 重松 博之	1学期	1	2	44	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	法哲学Ⅳ	2学期	1	2	45
	重松 博之	1年			
■特別研究科目	憲法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	植木 淳	1年			
	憲法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	47
	中村 英樹	1年			
	行政法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	48
	岡本 博志	1年			
	民法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	49
	矢澤 久純	1年			
	民法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	50
	小野 憲昭	1年			
	商法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	民事訴訟法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	51
	山本 光英	1年			
刑事訴訟法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
刑事学特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	52	
朴 元奎	1年				
労働法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
社会保障法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
国際法特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4	53	
二宮 正人	1年				
日本法制史特別研究Ⅱ	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律学系科目 ■特別研究科目	法哲学特別研究II 重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	54
		1年			
■特定課題研究科目	私法領域特定課題研究II 小野 憲昭 他	1・2学期 (ペア)	1	4	55
		1年			
	公法領域特定課題研究II 岡本 博志 他	1・2学期 (ペア)	1	4	56
		1年			
■政策科学系科目 ■専門基礎科目	政策調査法 檜原 真二 他	1学期	1	2	57
		1年			
■専門科目	政治学III 濱本 真輔	1学期	1	2	58
		1年			
	政治学IV 濱本 真輔	2学期	1	2	59
		1年			
	行政学III 森 裕亮	1学期	1	2	60
		1年			
	行政学IV 森 裕亮	2学期	1	2	61
		1年			
	政治思想史III 休講		1	2	
		1年			
	政治思想史IV 休講		1	2	
		1年			
	途上国開発論III 三宅 博之	1学期	1	2	62
		1年			
	途上国開発論IV 三宅 博之	2学期	1	2	63
		1年			
産業政策論III 古賀 哲矢	1学期	1	2	64	
	1年				
産業政策論IV 古賀 哲矢	2学期	1	2	65	
	1年				
公共政策論III 檜原 真二	1学期	1	2	66	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■政策科学系科目 ■専門科目	公共政策論Ⅳ 檀原 真二	2学期	1	2	67
		1年			
	福祉政策論Ⅲ 狭間 直樹	1学期	1	2	68
		1年			
	福祉政策論Ⅳ 狭間 直樹	2学期	1	2	69
		1年			
	環境政策論Ⅲ 申 東愛	2学期	1	2	70
		1年			
	環境政策論Ⅳ 申 東愛	2学期	1	2	71
		1年			
	政策評価論Ⅲ 横山 麻季子	1学期	1	2	72
		1年			
	政策評価論Ⅳ 横山 麻季子	2学期	1	2	73
		1年			
比較政治経済学Ⅲ 坂本 隆幸	1学期	1	2	74	
	1年				
比較政治経済学Ⅳ 坂本 隆幸	2学期	1	2	75	
	1年				
NPO・社会起業論Ⅱ 古田 稔	1学期	1	2	76	
	1年				
■特別研究科目	政治学特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	行政学特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	政治思想史特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
途上国開発論特別研究Ⅱ 三宅 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	77	
	1年				
産業政策論特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4		
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■政策科学系科目 ■特別研究科目	公共政策論特別研究II 榎原 真二	1・2学期 (ペア)	1	4	78
		1年			
	福祉政策論特別研究II 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	環境政策論特別研究II 申 東愛	2学期 (ペア)	1	4	79
		1年			
	政策評価論特別研究II 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	比較政治経済学特別研究II 坂本 隆幸	1・2学期 (ペア)	1	4	80
		1年			
■特定課題研究科目	地域政策特定課題研究II 榎原 真二 他	1・2学期 (ペア)	1	4	81
		1年			
	比較政策特定課題研究II 三宅 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	82
		1年			

知的財産法II【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会のソフト化高度化に伴い知的財産のもたらす価値が増大している。知的財産を概観すると、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分されるが、知的財産法IIは「思想または感情の創作物に関わるもの」と「営業上の信用が化体されているもの」を保護する著作権法・不正競争防止法を重点的に扱う。なお、コンテンツビジネス実務に対応できる様に、契約実務も含める。

教科書 /Textbooks

「著作権判例百選」有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

半田正夫著「著作権法概説」一粒社
作花文雄「詳解著作権法」ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要、各国の著作権制度
2. 著作権の保護客体I～著作物の定義と種類、二次的著作物および編集著作物
3. 著作権の保護客体II～プログラムの著作物、データベースの著作物
4. 著作権の保護客体III～キャラクター、タイプフェイス等
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権、著作者の死後の扱い
7. 著作権(著作財産権)I～著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権
8. 著作権(著作財産権)II～公衆送信権、その他の著作財産権
9. 著作権(著作財産権)III～著作権の制限、特に引用の考え方
10. 著作権侵害I～要件、依拠及び類似性等の判断
 - 1 1. 著作権侵害II～著作権侵害の効果、権利の用尽等
 - 1 2. 著作権侵害III～みなし侵害
 - 1 3. 著作隣接権～概論、実演家の権利、放送事業者の権利
パブリシティの権利
 - 1 4. 商標登録要件(実体的要件)と商標権侵害・不正競争防止法、パブリシティの権利
 - 1 5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートや発表内容等の資料を利用して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
スカイプID kim-lab
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

法律実務特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 奥田・阿野・末廣

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

- ① 刑事事件における実務上の諸問題 (担当 弁護士阿野寛之)
- ② 法律相談の実務 (担当 弁護士奥田克彦)
- ③ マンションの法律問題 (担当 弁護士末廣清二)

教科書 /Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 購読を要しない。
木谷明 (編著) 「刑事事実認定の基本問題・第2版」
石井一正 「刑事事実認定入門・第2版」
植村立郎 「実践的刑事事実認定と状況証拠」
- ②, ③については講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 刑事事実認定をめぐる諸問題
第1回 刑事事件における事実認定のあり方
第2回 目撃供述 (犯人識別供述) の信用性
第3回 状況証拠による事実認定
第4回 刑事裁判における「自白」
第5回 違法収集証拠排除法則
- ② 法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
第1回 弁護士業務における「法律相談」の占める位置 (法律相談は入り口である。)
第2回 典型的な民事事件の相談事案 (具体的事件に即し)
第3回 家事事件 (夫婦関係・相続問題) 相談事案 (同上)
第4回 交通事故・刑事事件の法律相談 (同上)
第5回 ひるがえって、改めて法律相談の位置づけについて・その他
- ③ マンションをめぐる法律問題
第1回 区分所有建物とは何か
第2回 専有部分と共用部分
第3回 管理組合
第4回 管理者制度
第5回 管理者の権限

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記①は刑事法, 上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから, 各自学部で習ったことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代政治論II 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代政治と公共政策について考えるには、保守主義・リベラリズム・コミュニタリアニズム等の理論について知る必要があります。さらに、国家や自治体だけに限定されない、新しい公共性の担い手や公共性の在り方について理解を深めることが、現代政治と公共政策を読み解く上で重要になっています。

そこで本授業では、功利主義・保守主義・リベラリズム・リバタリアニズム・ロールズの正義論・コミュニタリアニズム・シティズンシップ・多文化主義等の理論について、初学者でもわかりやすく解説し、現代政治と公共政策を見つめる理論的視点を提供します。また、公共哲学についても、初歩的知識から講義し、公共哲学が投げかける現代政治および公共政策の課題について議論します。

そして現代政治理論および公共哲学の視点から、受講者との議論を通じて、今後の政治と公共政策の方向性・在り方について探究していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリント資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- W. キムリッカ著、訳者代表 千葉真・岡崎晴輝『新版 現代政治理論』日本経済評論社 (2005年11月)
- 足立幸男著『政策と価値 - 現代の政治哲学 - 』ミネルヴァ書房 (1991年1月)
- 齋藤純一編『公共性の政治理論』ナカニシヤ出版 (2010年7月)
- 佐々木毅・金泰昌編『21世紀公共哲学の地平 - 公共哲学10 - 』東京大学出版会 (2002年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 功利主義
- 3回 保守主義
- 4回 リベラリズム
- 5回 リバタリアニズム
- 6回 ロールズの正義論
- 7回 コミュニタリアニズム
- 8回 シティズンシップ
- 9回 多文化主義
- 10回 「公共哲学とは何か」
- 11回 公共性論(1) 【ユルゲン・ハーバーマス】
- 12回 公共性論(2) 【ハンナ・アレント】
- 13回 現代政治・公共政策と公共哲学(1) 【現状と課題】
- 14回 現代政治・公共政策と公共哲学(2) 【事例研究】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学を専攻する方だけでなく、法律を専攻する方、政策学を専攻する方でもわかりやすく、またそれぞれの専攻分野にも活かせる授業を行います。

現代政治論II 【昼】

キーワード /Keywords

現代政治理論・公共政策・公共哲学

都市環境論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中園 哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本でも有数の公害被害を経験した北九州市が、公害を克服しただけでなくその経験を活かして世界に誇れる環境モデル都市となったのは何故か？ 北九州独自の考え方や成功要因を考える。

公害問題の背景と具体的な公害克服の過程を通じて、市民・企業・行政・大学の果たした役割を理解し、公害問題解決の手法を学ぶ。また、公害を克服したにも拘わらず、市民をはじめとして「公害都市・北九州」のイメージが定着していた北九州市が、どのようにして「環境先進都市」へと脱皮することができたのかを学ぶ。

環境国際協力の実績を通じて、国際社会における日本への期待と北九州市の貢献を理解するとともに、地球環境問題への取組や環境ODAの意義を考える。また、廃棄物行政の経緯とエコタウンへの発展の過程を通じて資源循環型社会づくりにおける市民・企業・行政・大学の新しい役割を考える。これらに基づき、環境モデル都市の構築とアジアへの普及についてどのようなことができるか、何をすべきかを考える。

教科書 /Textbooks

教科書なし。毎回レジュメおよび関係資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに： 北九州市の環境政策の概要と講義の進め方について
- 2回 公害問題の発生と対策： 前例のない社会問題に市と市民はどのように立ち向かったか
- 3回 スモッグ警報発令と全市的協力体制確立： 北九州市の決断と企業の協力
- 4回 公害国会における公害関連法制度の確立： 開発より環境への動き
- 5回 公害の克服と新しい環境問題への取り組み： 後追い行政から未然防止へ
- 6回 環境国際協力の取り組み： 中国大連市との環境協力など
- 7回 環境国際協力の展開から環境ビジネスへ： アジア低炭素化センターの取り組み
- 8回 国際社会からの評価： グローバル500受賞が市民にもたらしたもの
- 9回 地球環境問題への取り組み： 国際社会からの期待と北九州市の取り組み
- 10回 廃棄物処理対策の方針転換： 「処理重視から資源リサイクルへ」
- 11回 エコタウンと3R： 循環型社会構築への道のり
- 12回 PCB処理とリスクコミュニケーション： 市民環境力とはなにか
- 13回 環境教育と市民活動： 環境教育の歩みと多様化する市民活動の発展
- 14回 低炭素社会づくりと環境モデル都市への道： 今、求められるもの
- 15回 まとめ： 北九州の環境政策はなぜ成功したのか、そしてこれから何が必要か

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加とレポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「北九州市環境首都検定公式テキスト」で、基礎的な知識を得ておくことにより、講義への理解がいつそう進む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市計画論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山脇 直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「『住むこと』について考える」

私たちは、必ず誰かの隣に住んでいます。
他者との関係のなかで「住む」ということは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。
また、「居住」するための「住居」のあり方は、私たちの生活のあり方を左右することすらあります。

それでは、私たちはいかなる方法で自ら「住む」環境の形成に関わっていくことができるのでしょうか。
本講は、私たちの日常生活にとって身近かつ根源的・基本的な「住む」という事実、都市計画を通し、政治・政策・法に関する学問の実践的意義について理解を深めること、
新たな政策展開の可能性を考察することを目的とします。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 第 1 回 はじめに。～「住むこと」がもつ根源性・政治性について～ 【居住】【住居】【住宅】
- 第 2 回 「住むこと」とは何であったか～住宅政策における「住宅」観～ 【持家政策】【居住政策】
- 第 3 回 「51C」から「居住福祉」へ～住宅改良の社会史～ 【貧民窟】【51C】【居住福祉】
- 第 4 回 居住地によるデモクラシー? 【集合住宅デモクラシー】【私的政府】【CID】
- 第 5 回 社会が育む権利の内実～法解釈理論の新展開I～ 【所有】【総有】【含有】
- 第 6 回 交渉で育て続ける契約～法解釈理論の新展開II～ 【私的自治】【関係】【交渉】
- 第 7 回 わが国マンションにおける議会政治 【強制競売】【建替え決議】【区分所有者集会】
- 第 8 回 マンション所有権の基本権的性質 【区分所有権】
- 第 9 回 “困った人たち”の物語～マンション管理狂騒曲～ 【マンション管理】
- 第 10 回 揺れ続けたマンション～阪神淡路大震災被災マンションの建替え～ 【被災建替え】
- 第 11 回 不法占拠の“法外”な合法性?～ウトロ51番地・伊丹空港に住んだ人々～ 【合法性】
- 第 12 回 集合住宅としての都市の命運～チェルノブイリ・九龍城塞、デトロイト・軍艦島と北九州～ 【国家】【経済】【都市】
- 第 13 回 いかにして「住む」か～コーポラティブ・ハウジングという手法～ 【コーポラティブ・ハウジング】
- 第 14 回 どのように「住む」か～コレクティブ・ハウジングという可能性～ 【コレクティブ・ハウジング】
- 第 15 回 おわりに。～居住生活と住宅をめぐる「価値」・「場所」・「方法」～ 【合意形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講姿勢、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート(2500字程度)の提出も歓迎します。
受講姿勢...50% 定期試験...50%
レポートはその内容に応じ、1本10%までで加点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメをよく読んでおくこと。
自分なりの問題意識をもつこと。
知識にこだわらず、何が問題であるかを考えて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

臆しない。悩まない。困ったら、応相談。

都市計画論II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出来、不出来より積極性を評価します。
修士論文作成に向けて、進路形成に向けて、いかに講義を活用するかを考えてもらいたい。

キーワード /Keywords

持家政策、居住政策、貧民窟、51C、居住福祉、集合住宅デモクラシー、私的政府、CID、マンション管理、被災建替え、合法性、コーポラティブ・ハウジング、コレクティブ・ハウジング

自治体政策論II 【昼】

担当者名 /Instructor 垣迫 裕俊 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

いま全国の地方自治体は、少子高齢化、人口減少、経済雇用情勢の低迷、財政事情の逼迫化の中で、持続可能な地域経営のための方策を試行錯誤で模索・実践している。本授業では、市議会での実際の論議等を主な題材としてとりあげ、北九州市での政策展開について考える。この授業を選択する学生は、自治体政策の実践現場について、単なる机上での理解にとどまらず、市議会議員と市長以下の執行部との間の議論過程を交えて臨場感をもって学ぶことができる。具体的なテーマとしては、行財政改革、環境政策、社会保障政策、産業政策、コミュニティ政策等を取り上げるが、授業全体を貫くテーマは、自治体のサステナビリティ（持続可能性）である。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自治体におけるサステナビリティとは
- 2回 行財政改革の実際
- 3回 自治基本条例、議会基本条例
- 4回 自治体の総合計画（基本構想、基本計画）
- 5回 成長戦略と雇用
- 6回 国際水・環境ビジネス
- 7回 インフラ整備とその更新
- 8回 ゲストスピーカー（現職市議会議員を予定）との議論
- 9回 環境政策の過去、現在、未来
- 10回 住民との実践的リスクコミュニケーション
- 11回 まちづくりの担い手、コミュニティの課題、ソーシャルキャピタルの実際
- 12回 社会保障政策全般、高齢者施策
- 13回 医療、介護、保健衛生
- 14回 障害者自立支援、生活保護
- 15回 まとめ

※進捗状況に応じて適宜変更の可能性あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中への参加姿勢・・・30%、授業中のディスカッションへの貢献度・・・40%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平成25年7月頃に開かれる「議会報告会」に参加することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

サステナビリティ 少子高齢化 人口減少 行財政改革 環境政策 社会保障政策

法政総合演習【夜】

担当者名 /Instructor 法学研究科長 他

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本科目は、法律系・政策系の枠組みを超えて、また研究者コース・専修コースの枠組みを超えて、法律学・政策科学の全体を俯瞰し、自らが専門として研究しようとする分野の法学全体の中での位置づけを把握するために必要となる知識を習得することを目的とする。そして、オムニバス式の講義により、本研究科所属の専任教員を大学院生に紹介し、各担当教員の研究関心を学生達に提示することで、学生達の履修計画、論文執筆、ならびに研究指導教員・副指導教員の決定などに役立つことが期待される。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当者のトピックスに応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション(「法学を研究する」): 研究科長
- 第2回 憲法学の現在: 植木、中村
- 第3回 公法学の現在: 岡本、福重
- 第4回 民法学の現在: 小野、矢澤、福本
- 第5回 民事法学の現在: 今泉、高橋、小池
- 第6回 刑法学の現在: 山本、大杉
- 第7回 刑事法学の現在: 朴、吉村後任(予定)
- 第8回 社会法学の現在: 津田、石田
- 第9回 基礎法学の現在: 岡、重松
- 第10回 都市政策研究の現在: 古賀、榎原
- 第11回 環境政策研究の現在: 三宅、申
- 第12回 福祉政策研究の現在: 狭間
- 第13回 比較政策研究の現在: 坂本
- 第14回 政治研究の現在: 大澤、濱本
- 第15回 行政研究の現在: 森、横山

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各担当教員の研究テーマおよびそれに関連した参考文献などを自ら進んで調べると理解が深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律文献調査【夜】

担当者名
/Instructor

重松 博之 他

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

本講義では、六法を中心とする法律の各分野に即して、必要となる判例や法律文献や法令等の調査方法について学習する。その際、基本的な法分野を広く見渡しながらか学習することになる。そのうえで最終的には、基本的には各自が専門とする分野についての判例評釈を書くことになる。そのために、判例、文献、法令等の引用の仕方などもあわせて学ぶ。法律学の全体を幅広く見渡すと同時に、この講義で学んだことを、各人が修士論文や特定課題研究を今後執筆していく上でのスキルとして活用できるようにすることが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (法律学科長)
科目の概要説明と大学図書館を利用した法律文献調査について
- 第2回 法律文献情報の調査法 (福本、石田)
六法の構成・使用法と
「CiNii Articles」、「国立国会図書館サーチ (NDL Search)」などを用いた法律文献調査
- 第3回 法律文献情報の調査法② (福本、石田)
法律文献の引用表記方法と
「TKCローライブラリー」の「D1-Law.com法律判例文献情報」などを用いた法律文献調査
- 第4回 法令の調査法 (福重、岡本)
法令の引用表記方法と
法令データ提供システム (総務省)、日本法令索引 (国立国会図書館)、
制定法律本文情報 (衆議院) などを用いた法令調査
- 第5回 法令の調査法② (福重、岡本)
全国条例データベース、帝国議会会議録および国会会議録検索システムなどを用いた法令調査
- 第6回 判例の調査法 ~ 刑事法学を実例として (大杉、山本)
「TKCローライブラリー」の「LEX/DBインターネット」、
「裁判所ウェブ」の「判例検索システム」などによる裁判例の調査法
- 第7回 判例の調査法 ~ 刑事法学を実例として② (大杉、山本)
裁判例の特定方法 (事件番号、裁判年月日)、引用表記方法と判例評釈の仕方や利用方法など
- 第8回 憲法学の文献調査について (植木、中村)
- 第9回 憲法学の判例調査について (植木、中村)
- 第10回 民法学の文献調査について (矢澤、小野)
- 第11回 民法学の判例調査について (矢澤、小野)
- 第12回 商法学の文献調査について (高橋、今泉)
- 第13回 商法学の判例調査について (高橋、今泉)
- 第14回 民事訴訟法学の判例・文献調査について (小池)
- 第15回 社会法学の判例・文献調査について (津田)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加の様態 (熱心さや貢献度など) (50%)、レポート (50%)
レポートは、各自が専門とする分野での判例評釈を基本とする。
ただし、専門とする分野によっては教員と相談のうえ、文献レビューでも可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

判例や文献の情報検索に際してはパソコンを使用することもあるので、パソコンの基本的な操作方法に関しては、事前に知っている必要がある。

法律文献調査【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

判例 文献 法令 調査

憲法AIII 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

憲法判例研究を行う。ただし、受講者の希望によっては授業計画を大幅に変更して、各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をする。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、充分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋和之他『憲法判例百選I・II』(有斐閣・2007年)
浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 人権享有主体(在留外国人選挙権訴訟)
- 3回 私人間効力(日産自動車事件)
- 4回 幸福追求権(輸血拒否訴訟)
- 5回 平等原則(国籍法事件)
- 6回 思想良心の自由(国旗国歌拒否訴訟)
- 7回 信教の自由・政教分離原則(砂川政教分離訴訟)
- 8回 表現の自由と事前抑制(北方ジャーナル事件)
- 9回 表現の自由と名誉・プライバシー(月刊ペン事件・夕刊和歌山時事事件)
- 10回 表現の自由と政治活動(葛飾マンション事件)
- 11回 経済的自由権(森林法違憲訴訟)
- 12回 適正手続保障(第三者所有物没収事件)
- 13回 生存権(堀木訴訟)
- 14回 教育を受ける権利(旭川学力テスト事件)
- 15回 選挙権(在外邦人選挙権訴訟)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は報告準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法AIV 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

最新の憲法判例に関する研究を行う。ただし、受講者の希望によっては授業計画を大幅に変更して、各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をする。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、十分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋和之他編『憲法判例百選I・II』(有斐閣・2007年)
浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 目黒社会保険事務所事件
- 3回 住基ネット違憲訴訟
- 4回 非嫡出子相続分差別違憲訴訟
- 5回 国籍法違憲訴訟
- 6回 国旗国歌拒否訴訟
- 7回 白山ひめ神社訴訟
- 8回 葛飾マンション事件
- 9回 メープルソープ写真集事件
- 10回 福島県青少年健全育成条例事件
- 11回 インターネットと名誉毀損
- 12回 建物区分所有法違憲訴訟
- 13回 裁判員制度の合憲性
- 14回 衆議院議員定数不均衡訴訟
- 15回 参議院議員定数不均衡訴訟

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は報告準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

教科書 /Textbooks

戸松秀典『プレップ憲法 第3版』（弘文堂、2007年）
※変更の可能性もあり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の目的・概要説明、報告分担決定など)
- 第2回 憲法に関する基礎的内容の講義
- 第3回 憲法に関する応用的内容の講義
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論(第1章 憲法学の広さと深さ)
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論(第2章 憲法の解釈)
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論(第3章 日本国憲法の仕組み)
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論(第4章 尊属殺人事件の裁判例)
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論(第5章 最高裁判所と裁判官)
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論(第6章 違憲判決と憲法判例)
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論(第7章 憲法訴訟の道)
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論(第8章 政治過程における解決)
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論(第9章 国民と憲法)
- 第13回 専門文献講読①
- 第14回 専門文献講読②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容: 50%、検討・議論への参加状況: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジユメを用意すること。報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

教科書 /Textbooks

新井誠ほか編著『地域に学ぶ憲法演習』（日本評論社、2011年）
※変更の可能性もあり

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (演習の目的・概要説明、報告分担決定など)
- 第2回 (必要があれば) 憲法に関する基礎的内容の講義
- 第3回 指定テキストの報告及び検討・議論 (総論1 憲法から論じる格差社会)
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論 (総論2 条例による有害図書規制の行方)
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論 (総論3 ローカルな法秩序の可能性)
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論 (大泉町の外国人行政)
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論 (地域が民営刑務所を「引き受ける」ことの意味)
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論 (山陰の「周縁」で「一票の不平等」容認を叫ぶ?)
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論 (白山信仰と政教分離原則)
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論 (生存権保障が抱えるジレンマ)
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論 (道州制)
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論 (地域における民主制)
- 第13回 指定テキストの報告及び検討・議論 (直接民主制による間接民主制の補完)
- 第14回 指定テキストの報告及び検討・議論 (同性婚論争とアメリカ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容 : 50%、検討・議論への参加状況 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジユメを用意すること。報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法AIII 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「行政訴訟」
行政訴訟における諸問題につき解釈論を中心として検討を行う。

授業においては、

- ①旧憲法下の行政裁判制度と現行憲法下の行政訴訟制度との相違
- ②行政事件訴訟法に定める訴訟類型
- ③抗告訴訟における訴訟区分
- ④行政訴訟における訴訟要件
- ⑤行政訴訟におけるその他の解釈論上の問題点

について、高度の知識を学び理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

橋本博之『要説行政訴訟』（2006年、弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本弁護士連合会行政訴訟センター編『実務解説行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）
- 小林久起『司法制度改革概説3 行政事件訴訟法』（2004年、商事法務）
- 園部逸夫・芝池義一編『改正行政事件訴訟法の理論と実務』（2006年、有斐閣）
- 小早川光郎編『改正行政違憲訴訟法』（ジュリスト増刊、2005年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回	ガイダンス	
第 2回	行政訴訟制度の沿革（1）	旧憲法下の行政裁判制度
第 3回	行政訴訟制度の沿革（2）	現行憲法と行政訴訟
第 4回	行政訴訟制度の沿革（3）	行政事件訴訟法の改正
第 5回	行政訴訟の類型（1）	行政訴訟の4類型
第 6回	行政訴訟の類型（2）	行政訴訟の4類型（続）
第 7回	抗告訴訟（1）	抗告訴訟の意義とその種類
第 8回	抗告訴訟（2）	抗告訴訟の訴訟要件
第 9回	抗告訴訟（3）	抗告訴訟の審理過程
第10回	抗告訴訟（4）	抗告訴訟の判決
第11回	当事者訴訟	
第12回	民衆訴訟と機関訴訟	
第13回	仮の権利保護（1）	執行停止と仮処分
第14回	仮の権利保護（2）	仮の義務付けと仮の差止め
第15回	まとめ	

※ 授業においては、報告を求めることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取組の状況 100%（質疑における応答、報告の内容、出席状況を含む。）
試験は行わない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメおよび資料を配布するので、それらに沿って事前に学習しておくこと。
とくに調べておくべきことを支持する場合には、しかるべく作業をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

行政法の知識があることを前提とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行政法AIII 【夜】

キーワード /Keywords

行政法AIV 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「情報公開法」
情報公開法制の諸問題につき、その仕組みと解釈論について検討を行う。

授業においては、

- ①情報公開制度の意義
- ②情報公開制度の憲法上の基礎
- ③情報公開法・情報公開条例の仕組み
- ④判例の状況の検討

をとおして、情報公開法制についての高度な知識と理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説(第5版)』(2012年、有斐閣)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』(1999年、ぎょうせい)
その他の参考文献については、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎
- 第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(1)
(目的、定義規定)
- 第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(2)
(開示義務、部分開示、応答拒否、裁量的開示)
- 第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(3)
(個人情報)
- 第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(4)
(法人等情報、意思形成過程情報)
- 第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(5)
(外交・国防情報、安全・公安情報)
- 第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(6)
(事務事業情報)
- 第 9回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(7)
(開示手続、不服申立て、審査会)
- 第10回 判例の検討(1)
- 第11回 判例の検討(2)
- 第12回 判例の検討(3)
- 第13回 判例の検討(4)
- 第14回 判例の検討(5)
- 第15回 まとめ
※ 授業において報告を求めることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組の状況 100% (質疑への対応、報告の内容、出席状況を含む。)
試験は行わない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメおよび資料を配布するので、それらに沿って事前に学習しておくこと。
とくに調べるべきことを指示した場合には、しかるべく作業を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学および行政法学の知識があることが望ましい。

行政法AIV 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法BIII 【夜】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

行政法に関する文献（阿部泰隆『続・政策法学講座 やわらか頭の法戦略』（第一法規、2006年）を予定している。ただし、参加者の関心に応じて変更することがある。）を読み、検討を行う（参加者に、文献中のテーマに関する検討等、何らかの報告の場を設ける）。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①文献購読を通して、行政法上の問題を検討するために必要な基礎的知識を確実なものにするとともに、発展的な知識を身につける。
- ②行政法の基礎的な理論に基づいて、文献を分析することができる。

教科書 /Textbooks

阿部泰隆『続・政策法学講座 やわらか頭の法戦略』（第一法規、2006年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の打ち合わせ
- 第2回 座礁したクジラの救出は発見した長の責任？法律による解決の試み。
- 第3回 承前。通達とは何か
- 第4回 承前。地方自治法における事務負担。
- 第5回 承前。事務負担と費用負担
- 第6回 個人情報保護しつつ、費用をかけた法施策。法律による解決の試み。
- 第7回 承前。個人情報保護の制度。
- 第8回 承前。内部規程の意義。
- 第9回 承前。条例と法律の関係。
- 第10回 市税滞納者の氏名公表条例の作り方。法律による解決の試み。
- 第11回 承前。行政上の義務とその履行の強制。
- 第12回 承前。非権力的な履行の強制。
- 第13回 承前。条例案の検討。目的規定。
- 第14回 承前。条例案の検討。権限発動の要件。
- 第15回 まとめと理解の確認

※受講者の人数、授業の進行状況に応じて、授業の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み50%、試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論、行政争訟法を履修済みであることが望ましいが、未履修であっても学ぶ熱意がある者は歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法

行政法BIV 【夜】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

行政法に関する文献（阿部泰隆『続・政策法学講座 やわらか頭の法戦略』（第一法規、2006年）を予定している。ただし、参加者の関心に応じて変更することがある。）を読み、検討を行う（参加者に、文献中のテーマに関する検討等、何らかの報告の場を設ける）。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①文献購読を通して、行政法上の問題を検討するために必要な基礎的知識を確実なものにするとともに、発展的な知識を身につける。
- ②行政法の基礎的な理論に基づいて、文献を分析することができる。

教科書 /Textbooks

阿部泰隆『続・政策法学講座 やわらか頭の法戦略』（第一法規、2006年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の打ち合わせ
- 第2回 屋外広告物条例の強化の仕方。屋外広告物法の改正・景観法の制定。法律による解決の試み。
- 第3回 承前。簡易除却の制度。
- 第4回 承前。条例案の検討。
- 第5回 宝塚市パチンコ店条例門前払い最高裁判決を受けた条例の作り方。法律による解決の試み。
- 第6回 承前。判例の内容。条例案の検討。
- 第7回 放置自転車対策は現場留置が決め手だ
- 第8回 ペット霊園条例の作り方。法律による解決の試み。
- 第9回 承前。かけこみ規制の問題。
- 第10回 承前。行政指導の問題。
- 第11回 承前。条例案の検討。
- 第12回 風営法パチンコ出店妨害事件の解決策。法律による解決の試み。
- 第13回 承前。不許可処分に関する判例。
- 第14回 承前。民事の仮処分の可能性。
- 第15回 まとめと理解の確認

※受講者の人数、授業の進行状況に応じて、授業の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み50%、試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論、行政争訟法を履修済みであることが望ましいが、未履修であっても学ぶ熱意がある者は歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法

民法AIII 【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この科目では、民法の中の民法総則の部分について考える。民法を学習する場合、民法総則が基本となる。また、法学全般の基本でもある。ここを学習することは、大きな意味があるものと思われる。この分野について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めてゆきたい。

教科書 /Textbooks

民法総則分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 信義誠実の原則の適用範囲
- 3回 権利の濫用の適用範囲
- 4回 未成年者をめぐる諸問題
- 5回 成年後見をめぐる諸問題
- 6回 物をめぐる諸問題
- 7回 法律行為をめぐる諸問題
- 8回 虚偽表示をめぐる諸問題
- 9回 錯誤をめぐる諸問題
- 10回 詐欺、強迫をめぐる諸問題
- 11回 代理をめぐる諸問題
- 12回 無権代理をめぐる諸問題
- 13回 条件、期限をめぐる諸問題
- 14回 時効をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 ... 50 %
 学期末に提出してもらうレポート ... 50 %
 (レポート課題は、講義で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を必ず、持参すること。

履修上の注意 /Remarks

それなりに調査・研究することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし。

キーワード /Keywords

民法総則

民法AIV 【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民法の中の債権総論の分野について考える。近時、債権法改正の議論が起こっている。これを理解するためには、まず、現在の民法の債権法について理解する必要がある。その中でも、債権総論について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めていきたい。改正提案ではどのようなになっているかについて留意しながら、進めていきたい。

教科書 /Textbooks

債権総論分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 物権と債権の違いをめぐる諸問題
- 3回 種類債権をめぐる諸問題
- 4回 強制履行をめぐる諸問題
- 5回 履行遅滞をめぐる諸問題
- 6回 履行不能をめぐる諸問題
- 7回 不完全履行をめぐる諸問題
- 8回 賠償範囲をめぐる諸問題
- 9回 債権者代位権をめぐる諸問題
- 10回 債権者取消権をめぐる諸問題
- 11回 多数当事者の債権関係をめぐる諸問題
- 12回 債権譲渡をめぐる諸問題
- 13回 弁済をめぐる諸問題
- 14回 相殺をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 50 %
学期末に提出してもらうレポート 50 %
(レポート課題は、授業で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参すること。『債権法改正の基本方針』(商事法務) を購入することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

それなりに調査・研究することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし。

キーワード /Keywords

債権総論

民法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法財産法分野に関する学術論文（なかでも、講学上、契約総論と呼ばれる分野を主たる考察対象とするもの）の検討を行う。学部時代に培った契約法の知識を総動員して、質の高い研究報告および論文執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。なお、到達目標は、下記の通りである。

- 1) 高度専門職業人として活躍できるに相応しい民法学の専門的知識を修得するため、契約法分野の学術論文の内容を要約し、的確な論評を加えることができる。
- 2) 上記1)を前提として、高度専門職業人に相応しい「読む力」および「書く力」を涵養するため、大学院レベルのレポート（小論文）を執筆できるようにする。具体的には、を分析基軸に据えた民法（学）の研究ノートを執筆できるようにする。
- 3) 実務的知識・スキル修得のため、他の受講生および教員と旺盛な議論を展開することができる。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（契約法）の体系書については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版（年度）の六法は必携である。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり（契約法の復習用として）、清水元『プロGRESS民法 [債権各論I]』（成文堂、2012年）；定価（2,900円＋税）を挙げておく。その他の参考書については、適宜授業のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明
 第2回 報告学術論文概要報告（受講院生全員）。
 第3回 教員による報告および質疑・応答（債務者主義危険負担と解除の関係について〔予定〕）
 第4回 研究報告（報告者A / 1回目：質疑応答） ※以降のスケジュールは受講院生の人数により変更される場合がある。
 第5回 研究報告（報告者A / 2回目：教員による補足）
 第6回 研究報告（報告者B / 1回目：質疑応答）
 第7回 研究報告（報告者B / 2回目：教員による補足）
 第8回 研究報告（報告者C / 1回目：質疑応答）
 第9回 研究報告（報告者C / 2回目：教員による補足）
 第10回（受講院生全員で議論）「同時履行の抗弁（権）」に関する諸問題
 第11回（受講院生全員で議論）「危険負担」に関する諸問題
 第12回（受講院生全員で議論）「契約の解除」に関する諸問題
 第13回 小論文報告会（受講院生の人数次第では2回に渡る。予定としては、各院生報告20分。）
 第14回 小論文報告会（予備）
 第15回 まとめ
 ※最終授業終了時、小論文（10,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討した契約法上の諸制度に関する判例・学説の変遷を考察対象とするもの。執筆要領その他詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など...50%
 ※レポート（小論文）の内容...50%
 【注意】レポート（小論文）未提出者には単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備、小論文執筆など、かなり負担の大きい授業である。これまで（学部生時代）の「論点」暗記型学習ではなく、自らテーマを設定し、種々の文献を渉猟し、質の高い研究報告を行ったうえで、小論文を執筆しなければならない。したがって、民法（財産法）の総復習をしてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法BIII 【夜】

キーワード /Keywords

民法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法財産法分野に関する学術論文（なかでも、フランス民法を主たる比較法の分析対象とするもの）の検討を行う。学部時代に培った分析力を総動員して、質の高い報告および研究ノート執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。なお、到達目標は、下記の通りである。

- 1) 高度専門職業人として活躍できるに相応しい民法学の専門的知識を修得するため、外国の民法（本授業ではフランス民法）の諸制度の基本を理解することができる。
- 2) 上記理解を前提として、高度専門職業人に相応しい「読む力」および「書く力」を涵養するため、大学院レヴェルの小論文（レポート）を執筆できるようになる。具体的には、「比較法」を分析基軸に据えた民法（学）の研究ノートを執筆できるようになる。
- 3) 実務的知識・スキル修得のため、他の受講生および教員と旺盛な議論を展開することができる。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の基本書・体系書、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版（年度）の小型六法は必携。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）
- ※現在、入手困難な文献なので、教員所有のものをコピー（研究該当箇所のみ）して配布する予定である。
- 山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）；定価（15,000円＋税）
- ※その他の参考書については、適宜授業のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス（授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。）
 - 第2回：報告する学術論文の概要の報告（受講生全員）。採り上げる論説等は、各院生の任意とする。ただし、財産法に関するものであり、かつ、フランス民法を主たる考察対象としているものを原則とする。この条件を満たすのであれば、論題は問わない。
 - 第3回：教員による報告と質疑・応答。
 - 第4回：報告レジュメの作成方法の確認。
 - 第5回：研究報告（報告者A：1回目）および質疑・応答。 ※以下のスケジュールは、受講人数により変更される場合がある。
 - 第6回：報告のつづき（報告者A：2回目）および教員による補論。
 - 第7回：研究報告（報告者B：1回目）および質疑・応答。
 - 第8回：報告のつづき（報告者B：2回目）および教員による補論。
 - 第9回：研究報告（報告者C：1回目）および質疑・応答。
 - 第10回：報告のつづき（報告者C：2回目）および教員による補論。
 - 第11回：研究ノート指導（各院生に執筆できたところまでの添削を返却し、指導を行う。）
 - 第12回：研究ノート指導のつづき
 - 第13回：研究ノート報告会（報告30分、質疑・応答60分を予定）
 - 第14回：研究ノート報告会〔予備日〕
 - 第15回：まとめ
- ※最終授業終了時、レポート（研究ノート；6,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス民法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を分析基軸とした小考とする。執筆要領その他詳細は、初回時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...50%
- ※レポート（研究ノート）の内容...50%
- 【注意】レポート未提出者には単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備、レポート執筆など、かなり負担の大きい授業である。わが国の民法は当然のこと、フランス民法にも関心がないと生産的な授業・研究にならない。事前に参考文献に目を通すなどのことはしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

民法BIV【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス民法に関心を持とう！旧民法にも関心を持とう！

キーワード /Keywords

民法CIII 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

最新の最高裁判例を素材としながら、これまで学部で培ってきた民法の知識や理解、思考の専門性を一層深めるとともに、民法研究に必要な基礎作業ができるようになることを目的としています。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 判例を読み、内容を整理し、問題点を発見し分析することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解明に役立つ資料を収集し活用することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に必要な高度な法的知識や思考能力を養い、説得力ある解決策が提示できるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例研究の意義、目的、関係文献検索の方法
- 4回 判例研究の方法、判例引用の仕方に関する基本事項の確認
- 5回 担当判例報告及び討論(1)【担当判例のまとめ】
- 6回 担当判例報告及び討論(2)【関連判例】
- 7回 担当判例報告及び討論(3)【基本文献】
- 8回 担当判例報告及び討論(4)【関連文献】
- 9回 担当判例報告及び討論(5)【判例評釈】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 研究報告及び討論(1)【基本文献・関連文献】
- 12回 研究報告及び討論(2)【大審院判例】
- 13回 研究報告及び討論(3)【最高裁判例】
- 14回 研究報告及び討論(4)【判例評釈】
- 15回 研究成果のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告の際にはレジュメを用意してください。受講生全員討論に積極的に参加するよう求めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法CIV 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民法に対する知識や理解を一層深めるために、民法上の制度、判例や学説の形成・変遷の歴史を検討することを目的とします。必要があれば、ドイツ民法又はフランス民法の基本的な文献を輪読しながら、制度の成り立ちを知り、わが国の民法上の問題点が外国の判例や学説では、どのように解決されているのか、一緒に検討してみようと思っています。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 制度の成り立ちや仕組みを知り、判例・学説の形成発展の状況を理解し、専門的な知識や理解を深めることができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた多様なアプローチの仕方を知り、柔軟な思考と豊かな議論ができるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

必要に応じてその都度紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 文献調査・判例収集検討に関する基本事項の確認【邦語資料】
- 4回 文献調査・判例収集検討に関する基本事項の確認【外国語資料】
- 5回 担当者報告及び討論(1)【邦語基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【邦語関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【外国語基本文献】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【大審院及び最高裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【外国判例】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【邦語基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【邦語関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【外国語基本文献】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【大審院及び最高裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【外国判例】・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。必要なことは開講時に指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法AIII【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、企業活動に関連して発生している金融上の諸問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。
特に、最近の世界金融危機と現行の法制度との相互作用についても一緒に考えてみたい。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明。興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認し、あるいは問題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる。
 - 1) 裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、
 - 2) 入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第3回 候補テーマを紹介し合う。テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)、探してみるべき資料などについて、お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)をお互いに公表し、報告順番を決定する。
- 第5回 オリンパス事件を考える
- 第6回 サブ・プライムローンについて考える
- 第7回 銀行取引に関する事例研究
- 第8回 銀行経営の健全性に関する事例研究
- 第9回 銀行の貸し手責任に関する検討
- 第10回 証券取引に関する事例研究
- 第11回 証券会社の経営に関する事例研究
- 第12回 金融商品販売と消費者保護に関する事例研究
- 第13回 保険取引に関する事例研究
- 第14回 保険会社の健全な経営に関する事例研究
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法AIV 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なケースを取り上げながら、企業取引で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミの運営方針の説明。
テーマ・事例の選定にあたり、各自の問題意識を再確認し、あるいは、明確化する。
- 第02回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる
関連資料の多寡や入手の難易度を調査して、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第03回 複数の報告候補テーマを紹介し合う。
テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)などについて、意見交換を行う。
- 第04回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)を暫定的に決定すると共に報告順番を定める。
- 第05回 報告と討論 例: 営業秘密と不正競争に関わる問題
- 第06回 報告と討論 例: 秘密保持契約をめぐる問題点
- 第07回 報告と討論 例: 新しい事業形態と名板貸責任
- 第08回 報告と討論 例: 新しい事業形態と報償責任
- 第09回 報告と討論 例: 銀行の貸付・融資をめぐる問題点
- 第10回 報告と討論 例: 銀行取引約定書における債権保全規定
- 第11回 報告と討論 例: 金利の規制
- 第12回 報告と討論 例: 貸付債権の流動化をめぐる問題点(住専問題・リーマンショックから学ぶ)
- 第13回 報告と討論 例: 信用保険・保証保険と保証の違いについて
- 第14回 報告と討論 例: 消費者信用と信用生命保険について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。
報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法BIII 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

アメリカ会社法の文献や判例の分析を通じて我が国の会社法の理解を深めることを目的とする。この講義では主としてガバナンス関係の問題を扱います。

この授業の到達目標は以下の通りです。

- ①会社法に関する高度の専門的知識を習得する。
- ②会社法上の問題を自ら発見・分析する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考となる文献については適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 アメリカ会社法の概要(1)【州法と連邦法】
- 3回 アメリカ会社法の概要(2)【パートナーシップ】【コーポレーション】
- 4回 アメリカ会社法の概要(3)【公開会社】【閉鎖会社】
- 5回 株式会社における権限分配の構造
- 6回 株主総会(1)【議決権】
- 7回 株主総会(2)【委任状ルール】【株主提案権】
- 8回 取締役と取締役会(1)【選任と解任】【独立取締役】
- 6回 取締役と取締役会(2)【注意義務】【経営判断の原則】
- 7回 取締役と取締役会(3)【監視義務】
- 8回 取締役と取締役会(4)【忠実義務】
- 9回 取締役と取締役会(5)【利益相反取引】
- 10回 取締役と取締役会(6)【役員報酬】
- 11回 取締役と取締役会(7)【会社の機会】
- 12回 株主訴訟(1)【直接訴訟と派生訴訟】
- 13回 株主訴訟(2)【提訴請求】【訴訟委員会】
- 14回 会社とステークホルダー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法BIV 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

アメリカ会社法の文献や判例の分析を通じて我が国の会社法の理解を深めることを目的とする。この講義では主としてM&A関係の問題を扱いません。

この授業の到達目標は以下の通りです。

- ①会社法に関する高度の専門的知識を習得する。
- ②会社法上の問題を自ら発見・分析する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考となる文献等については授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 アメリカ会社法の概要
- 3回 会社の基礎的な取引(1)【合併】
- 4回 会社の基礎的な取引(2)【資産の譲渡】
- 5回 会社の基礎的な取引(3)【株式買取請求権】
- 6回 会社の基礎的な取引(4)【信託義務と株主訴訟】
- 7回 会社の基礎的な取引(5)【一段階のフリーズアウト取引】
- 8回 会社の基礎的な取引(6)【二段階のフリーズアウト取引】
- 9回 敵対的買収(1)【概要】
- 10回 敵対的買収(2)【ユノカル基準】
- 11回 敵対的買収(3)【ポイズンピル】
- 12回 敵対的買収(4)【レブロン義務】
- 13回 敵対的買収(5)【州の買収規制法】
- 14回 インサイダー取引
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への寄与度...50%、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法AIII【夜】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論をします。このことにより民事訴訟法についての知識を修得することを目的とします。最終的に、レポートを提出してもらいます。レポートの分量は、10000字程度を予定しています。なお、レポートのテーマについては、受講生と相談の上、決定します。到達目標は以下のとおりです。

- ・ 司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。
- ・ 学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に、受講生に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 法律上の争訟
- 3回 移送
- 4回 除斥、忌避
- 5回 死者を当事者とする訴訟
- 6回 法人でない団体の当事者能力
- 7回 法定訴訟担当
- 8回 訴訟能力
- 9回 将来の給付の訴え
- 10回 遺言無効確認の訴え
- 11回 証書真否確認の訴え
- 12回 訴えの交換的変更
- 13回 境界確定の訴え
- 14回 相殺の抗弁と重複訴訟
- 15回 一部請求

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生に個別に指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法AIV 【夜】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、重要な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論する。最終的にレポートを作成することを目的とする。この講義を受講することにより、民事訴訟法についての幅広く、深い知識を修得できる。

レポートの分量は、10000字程度を予定している。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定する。

到達目標は以下のとおりです。

司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。

・学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に受講生に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 攻撃防御方法の提出と信義則
- 3回 時機に遅れた攻撃防御方法
- 4回 弁論主義
- 5回 釈明権
- 6回 権利自白
- 7回 集団訴訟における証明
- 8回 概括的認定
- 9回 損害賠償額の算定
- 10回 違法収集証拠
- 11回 証明責任
- 12回 文書提出命令
- 13回 既判力の時的限界
- 14回 既判力の客観的範囲
- 15回 既判力の主観的範囲

成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、文献・判例を充分調査・検討して、講義に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

実際の民事訴訟は、実体法と手続法が交錯した世界であるが、具体的な訴訟事件を例に、民事訴訟の実務に関する基礎を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実務上問題となる事例や判例を材料として、民事訴訟法上の問題について検討する。

- 第1回 訴訟物とは何か
- 第2回 訴訟物と請求の趣旨、請求の原因の関係
- 第3回 訴訟物と既判力の関係
- 第4回 訴訟要件
- 第5回 訴えの利益、確認の利益
- 第6回 訴えの客観的併合
- 第7回 共同訴訟
- 第8回 補助参加、参加的効力
- 第9回 訴訟担当
- 第10回 既判力の基準時
- 第11回 既判力の主観的範囲
- 第12回 主張立証責任
- 第13回 弁論主義と釈明権
- 第14回 上訴審の構造
- 第15回 附帯控訴

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験のみ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民事訴訟法と実体法（特に民法）の知識は、講義の前提として必須であるから、各自学習すること。講義には六法を持参すること。授業で配布するレジメはよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法AIII 【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマに関する問題、刑法総論の重要問題につき、より高度な知識を身に付けるとともに、体系的思考力・刑法的思考力を身に付け、発展させることを目的とする。本講座のキーワードは、より高度の体系的思考力・刑法的思考力を身に付け、発展させるということである。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のテーマに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業テーマの選定
- 第2回 授業テーマの論点の考察
- 第3回 参考文献の選定
- 第4回 参考文献の論旨の要約
- 第5回 参考文献の論旨の批判・検討
- 第6回 参考判例の選定
- 第7回 参考判例の要約
- 第8回 参考判例の批判・検討
- 第9回 他のテーマとの関連性の有無の考察
- 第10回 関連性のある他のテーマとの関連の検討
- 第11回 授業テーマについての考察結果の文章化(レポート)
- 第12回 レポートについての考察・指導
- 第13回 追加的資料の検討・選定
- 第14回 追加的資料の要約
- 第15回 最終的レポートの提出・総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価(100%)による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑法総論の重要テーマについて、復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法AIV 【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究テーマ、刑法総論の重要問題についてのより高度な知識を身に付け、より高度な体系的思考力・刑法的思考力を身につけることを目的とする。本講座のキーワードは、より高度な知識・体系的思考力・刑法的思考力を身につけるといことである。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業テーマに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業テーマの選定
- 第2回 授業テーマの論点の検討
- 第3回 参考文献の選定
- 第4回 参考文献の論旨の要約
- 第5回 参考文献の論旨の批判・検討
- 第6回 参考文献のまとめ
- 第7回 参考判例の選定
- 第8回 参考判例の要約
- 第9回 参考判例の批判・検討
- 第10回 参考文献・参考判例の総合的な検討・考察
- 第11回 参考文献・参考判例の文章化(レポート)
- 第12回 レポートの検討
- 第13回 追加的資料の選定
- 第14回 追加的資料の検討
- 第15回 最終的レポートの提出・総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価(100%)による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑法総論の重要問題について復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法BIII【夜】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

修士論文を執筆するための基礎的な研究を進める。受講者が選定したテーマ(課題)についての日本法とドイツ法の理論状況を考察する。各テキストの論文テーマに該当する箇所を精読して、摘要をまとめる。

教科書 /Textbooks

授業計画中に指定の文献のほか、開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 論文テーマの提示と問題の所在の検討
- 3回 論文テーマに関する参考文献の整理と検討
- 4回 『刑法講座』、『現代刑法講座』の講読と摘要の作成
- 5回 『大コンメンタール刑法』の講読と摘要の作成
- 6回 Lackner/Kühl, Strafgesetzbuch, Kommentar. 講読と摘要の作成
- 7回 Fischer, Strafgesetzbuch und Nebengesetze, Kommentar. 講読と摘要の作成
- 8回 Schönke/Schröder, Strafgesetzbuch, Kommentar. 講読と摘要の作成
- 9回 Wessels, Strafrecht, AT/BT1/BT2. 講読と摘要の作成
- 10回 Kühl, Strafrecht, AT. 講読と摘要の作成
- 11回 Jescheck/Weigend, Lehrbuch des Strafrechts, AT. 講読と摘要の作成
- 12回 Roxin, Strafrecht, AT, Bd. 1/Bd. 2. 講読と摘要の作成
- 13回 日本とドイツの学説の概要
- 14回 日本とドイツの裁判例の概要
- 15回 最終レポートの提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)...50% 討論及び発言内容...50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

履修上の注意 /Remarks

刑法(刑法総論および刑法各論)をひと通り学んでいること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

これまでの日本の法理論の理解、ドイツをはじめとする諸外国の法理論の理解をもとにして、受講者が選定したテーマ(課題)について、日本および諸外国の法理論と対比しながら、自己の見解をまとめ、論証する。修士論文を執筆することを目的とする。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 自説の提立と論証の批判的検討
- 3回 日本の判例の検討
- 4回 日本の下級審裁判例の検討
- 5回 日本の判例理論の整理
- 6回 日本の学説の検討(通説について)
- 7回 日本の学説の検討(反対説について)
- 8回 論文テーマの中間報告
- 9回 外国裁判例の比較法的検討
- 10回 ドイツ法(または/および英米法)における学説の検討
- 11回 日本法理論と自説: 論証の対比的検討
- 12回 外国法理論と自説: 論証の対比的検討
- 13回 草稿の提出と批判的検討
- 14回 修正箇所を検討
- 15回 最終論文の提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)...50% 討論及び発言内容...50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

履修上の注意 /Remarks

刑法(刑法総論および刑法各論)をひと通り学んでいること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事学III 【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「アメリカ犯罪学理論の現状」をテーマとして、以下の文献を輪読・検討します。アメリカ犯罪学研究における理論構築と理論検証の両側面における最新の動向を検討することによって、犯罪学理論に関する知見を深めることが、本授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

Francis T. Cullen, John Paul Wright & Kristie R. Blevins (eds.), Taking Stock: The Status of Criminological Theory. (Advances in Criminological Theory Volume 15), New Brunswick, USA: Transaction Publishers, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J. Robert Lilly, Francis T. Cullen, & Richard A. Ball, Criminological Theory: Context and Conquences. (5th ed.), Thousand Oaks, CA: Sage Publications, 2010.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (アメリカ犯罪学理論の現状)
- 第2回 社会的学習理論
- 第3回 コントロール理論
- 第4回 総合緊張理論
- 第5回 制度的アノミー理論
- 第6回 集合的効力理論
- 第7回 ラディカル犯罪学
- 第8回 ビースメーカー犯罪学
- 第9回 ライフコース犯罪学
- 第10回 Sampson and Laubのライフコース理論
- 第11回 発達論的およびライフコース理論の構築
- 第12回 抑止理論のメタ分析
- 第13回 修復的司法と犯罪
- 第14回 犯罪理論と矯正的介绍との関係
- 第15回 犯罪学理論の実証性の評価

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学の一層深く理解したい場合は、刑法および刑事訴訟法などの関連科目の受講をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

英語文献を多読するので、相応の語学力・読解力を必要とします。

学部時代に犯罪学や刑事司法政策を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「刑事学調査研究のための統計学」をテーマとして、将来実証的調査研究を実施するうえで必要不可欠な統計学的知識の習得を目指します。アメリカ犯罪学・刑事司法政策の大学院プログラムにおいてテキストとしてよく利用されている基本文献を読み、統計学の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

James A. Fox, Jack Levin, & David R. Forde. Elementary Statistics in Criminal Justice Research, 3rd edition. Allyn & Bacon, 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Earl E. Babbie, The Practice of Social Research, (11 ed.), Wadsworth Publishing, 2006.
- Michael G. Maxfield & Earl R. Babbie, Research Methods for Criminal Justice and Criminology (with CD-ROM and InfoTrac).(5th ed.), Wadsworth Publishing, 2007.
- Jon L. Proctor & Diane M. Badzinski, Introductory Statistics for Criminal Justice and Criminology. Prentice Hall, 2002.
- E.バビー著(渡邊聡子監訳)『社会調査法 1 基礎と準備編』(培風館、2003年)
- E.バビー著(渡邊聡子監訳)『社会調査法 2 実施と分析編』(培風館、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 なぜ犯罪学者は統計学を利用するのか。
- 第3回 統計データのまとめ(度数分布、百分率、比率、クロス集計)
- 第4回 中心的傾向を表わす測度(モード、中央値、平均)
- 第5回 練習問題1
- 第6回 散らばりを表わす測度(レンジ、分散、標準偏差)
- 第7回 確率と正規曲線
- 第8回 確率変数と確率分布
- 第9回 標本と母集団
- 第10回 サンプルング
- 第11回 練習問題2
- 第12回 統計的推論の考え方(標本分布、標準誤差、信頼区間)
- 第13回 統計的検定の考え方(仮説検定、有意水準、標本平均に基づく仮説検定、比率の検定)
- 第14回 分散分析(ANOVA)と χ^2 乗検定
- 第15回 練習問題3

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10% 練習問題...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学の一層深く理解したい場合は、「刑事学第一特殊講義B」「刑法特殊講義」および「刑事訴訟法特殊講義」の受講をお勧めします。主要単元毎に3回「練習問題」を実際に解いていきますので、関数計算可能な卓上電卓を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

統計学の英文テキストを読むので、英語の読解力を必要とします。
練習問題を数多く解いていくので、予習および復習にそれなりの時間をとることが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学部時代に統計学を履修していることが望ましいが、未修の場合であっても英語の読解力があれば十分に理解できる内容となっています。

キーワード /Keywords

労働法III 【夜】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、労働の意義や意味について詳述しているBudd, The Thought of Workを輪読しながら、労働法の在り方を検討します。現在、労働法はさまざまな問題に直面しています。労働の根本的な意義に立ち帰りながら、労働法の将来について議論します。

教科書 /Textbooks

John W. Budd, The Thought of Work(Cornell University Press, 2011)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、報告者の割当
- 第2回 労働法の課題と労働の意義の関係
- 第3回 労働の意義—総説
- 第4回 呪いとしての労働
- 第5回 自由としての労働
- 第6回 商品としての労働
- 第7回 産業市民権としての労働
- 第8回 不効用としての労働
- 第9回 自己実現としての労働
- 第10回 社会関係としての労働
- 第11回 他人に対するケアとしての労働
- 第12回 アイデンティティとしての労働
- 第13回 サービスとしての労働
- 第14回 労働の重要性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発言の度合い、報告内容を総合的に評価します(発言の度合い...50%、報告...50%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英語の文献を輪読しますので、若干の英語力は必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くの人にとって、労働は人生の重要な部分を占めています。労働にどのような意味があるのか、労働が歴史的にどのように把握されてきたかを一度考えてみませんか。

キーワード /Keywords

労働法、労働の意義

労働法Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、最近の労働判例を取り上げ、分析、検討を行います。報告者による判例報告の後にディスカッションを行う形で講義を進めます。最近の労働判例を批判的な観点に基づいて分析、検討することにより、望ましい労働紛争の解決のための視点を養うところに本講義の目的があります。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 報告者による判例報告①
- 第3回 報告者による判例報告②
- 第4回 報告者による判例報告③
- 第5回 報告者による判例報告④
- 第6回 報告者による判例報告⑤
- 第7回 報告者による判例報告⑥
- 第8回 報告者による判例報告⑦
- 第9回 報告者による判例報告⑧
- 第10回 報告者による判例報告⑨
- 第11回 報告者による判例報告⑩
- 第12回 報告者による判例報告⑪
- 第13回 報告者による判例報告⑫
- 第14回 報告者による判例報告⑬
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、発言の度合い...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法Ⅲ【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマの設定・文献の選択
- 第3回 テーマ①(年金領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論(2)～各論点に関する分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論(3)～他の視点の提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第7回 テーマ②(生活保護領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第11回 テーマ③(労働保険領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③に関するまとめ
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマ・文献の選択
- 第3回 テーマ①(高齢者福祉領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第7回 テーマ②(障がい者福祉領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第11回 テーマ③(児童福祉領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③のまとめ
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法III 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。国際法IIIでは、女子差別撤廃条約に焦点を当てます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』(日本評論社・2006年)○
 芹田健太郎=薬師寺公夫=坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』(信山社・2008年)
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法
- 第3回 テーマ決定と研究対象判例の選定
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動(UPR, Treaty Bodyにおける報告制度等)】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用:自動執行力】
- 第7回 判例研究I①(精読:事実関係の明確化)
- 第8回 判例研究I②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第9回 判例研究I③(報告担当者による判例報告)
- 第10回 判例研究II①(精読:事実関係の明確化)
- 第11回 判例研究II②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第12回 判例研究II③(報告担当者による判例報告)
- 第13回 判例研究III①(精読:事実関係の明確化)
- 第14回 判例研究III②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第15回 判例研究III③(報告担当者による判例報告)

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。

履修上の注意 /Remarks

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】 【女子差別撤廃条約】

国際法Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国連の設立基本条約である国連憲章を取り上げ、それを逐条的に検討していくことを通じ、国際機構法についての理解を深めることを目的とします。国連憲章の条文ごとに、同規定はどのように一般的に解されているのか、また、同規定に対する国連の実行はどのような特徴を示しているのか、について検討していきます。
2013年度は、とくに国際司法裁判所の組織や活動と関連する国連憲章の条項について取り上げようと考えています。

教科書 /Textbooks

Bruno Simma, The Charter of the United Nations; A Commentary, Oxford Univ. Press, 1994
United Nations, Repertory of Practice of the United Nations, On web-site, www.un.org

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田岡良一『国際連合憲章の研究』(有斐閣, 1949年) ○
藤田久一『国連法』(東京大学出版会, 1998年) ○
なお、その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 United Nations, Repertory of Practice of the United Nationsの利用の仕方
- 第3回 国際司法裁判所の組織構造
- 第4回 国際司法裁判所の機能①: 判決 (Judgement)
- 第5回 国際司法裁判所の機能②: 勧告的意見(Advisory Opinion)
- 第6回 国連の実行の検討 国連憲章第92条① Bruno Simma
- 第7回 国連の実行の検討 国連憲章第92条② UN Reprtory
- 第8回 国連の実行の検討 国連憲章第93条① Bruno Simma
- 第9回 国連の実行の検討 国連憲章第93条② UN Reprtory
- 第10回 国連の実行の検討 国連憲章第94条① Bruno Simma
- 第11回 国連の実行の検討 国連憲章第94条② UN Reprtory
- 第12回 国連の実行の検討 国連憲章第95条① Bruno Simma
- 第13回 国連の実行の検討 国連憲章第95条② UN Reprtory
- 第14回 国連の実行の検討 国連憲章第96条① Bruno Simma
- 第15回 国連の実行の検討 国連憲章第96条② UN Reprtory

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ある程度の英語の力が必要となります。1週間に10ページ程度の資料を読んでいくため、クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められることとなります。

履修上の注意 /Remarks

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組み立てにも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。
まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国連憲章の条文を日本語と英語で比較検討してみたことがありますか。語句(単語)どうしの相関関係を理解しておく、国連に関する英語の資料を読むのが少しは楽になりますよ。また国連憲章の正文には、英語のほかに、中国語、フランス語、ロシア語、スペイン語で書かれたものがあります(あとアラビア語も公用語にはなっています)ので、いかがですか。

キーワード /Keywords

【国際司法裁判所(ICJ)】 【国連憲章】 【国際司法裁判所規程】 【判決】 【拘束力】 【履行と執行】 【勧告的意見】 【法律問題】 【要請できる機関】

日本法制史Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

中世の法の存在形態と法意識を探ることを目途とし、史料講読

教科書 /Textbooks

中世法制史料についてのテキストを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者による史料輪読

- 1 ガイダンス
- 2 中世法制史料についての解説 【鎌倉幕府法】
- 3 御成敗式目講読 1~8条
- 4 御成敗式目講読 9~16条
- 5 御成敗式目講読 17~25条
- 6 御成敗式目講読 26~34条
- 7 御成敗式目講読 35~43条
- 8 御成敗式目講読 44~51条
- 9 追加法講読【手続法】 19,30,42,73,76条
- 10 追加法講読【手続法】 87、93、146,168,212条
- 11 追加法講読【手続法】 260,264,303,322,446条
- 12 追加法講読【手続法】 547~555条
- 13 追加法講読【手続法】 556~558条、574~577条
- 14 追加法講読【手続法】 619,650、661,713,714条
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は事前に担当史料を読解しレジユメを作成しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

戦国家法の講読

教科書 /Textbooks

テキスト配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者による史料の輪読

- 1 ガイダンス
- 2 今川仮名目録講読 1~6条
- 3 今川仮名目録講読 7~12条
- 4 今川仮名目録講読 13~18条
- 5 今川仮名目録講読 19~25条
- 6 今川仮名目録講読 26~33条
- 7 今川仮名目録追加講読 1~4条
- 8 今川仮名目録追加講読 5~9条
- 9 今川仮名目録追加講読 10~13条
- 10 今川仮名目録追加講読 14~18条
- 11 今川仮名目録追加講読 19~21条
- 12 今川仮名目録訴訟条目講読 1~5条
- 13 今川仮名目録訴訟条目講読 6~10条
- 14 今川仮名目録訴訟条目講読 11~13条
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は事前に担当史料を読解しレジユメを作成しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学III 【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとして、現代ドイツにおける社会哲学の第一人者とも言いうるユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究-(上)』（未来社）を想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【事実性と妥当性】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【法的妥当性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【社会学的法理論】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【哲学的正義論】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【私的自律と公的自律】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【討議原理と民主主義原理】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【コミュニケーション的権力】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【法治国家の諸原理】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【法の不確定性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【裁判の合理性】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【自由主義的法パラダイム】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【憲法裁判】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

法哲学Ⅳ【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義の主題とする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキスト・内容は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。暫定的には、ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究-(下)』(未来社)、またはヘーゲル(上妻精他訳)『法の哲学(上巻)(下巻)』(岩波書店)のうち、いずれか一方の精読・検討を候補として考えている。ただし、受講生と相談のうえ、受講生の問題関心に応じて、上記以外のテキストをとりあげる場合もある。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【協議的政治】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【民主的手続きと中立性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【政治的公共圏】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【権力循環】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【公共的意見】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【私法の実質化】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【法的平等と事実的平等】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【手続き主義的法理解】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【合法性による正統性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【法治国家の理念】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【手続きとしての国民主権】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【ナショナル・アイデンティティ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

憲法特別研究II 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

憲法に関する専門的・理論的探究を行う。但、受講者の修士論文執筆に応じて大幅に内容を変更することもある。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 人権基礎理論①(民主主義と立憲主義)
- 3回 人権基礎理論①(リベラリズム)
- 4回 人権基礎理論②(共同体主義)
- 5回 人権基礎理論③(潜在能力論)
- 6回 人権共有主体論
- 7回 私人間効力論
- 8回 幸福追求権論
- 9回 平等保護理論
- 10回 思想良心の自由論
- 11回 信教の自由論
- 12回 表現の自由論
- 13回 知る権利論
- 14回 経済的自由論
- 15回 生存権論
- 16回 教育の自由論
- 17回 労働基本権論
- 18回 適正手続条項論
- 19回 違憲審査制論①(司法審査と民主主義)
- 20回 違憲審査制論②(付随的審査制・抽象的審査制)
- 21回 違憲審査基準論の展開(アメリカ型違憲審査基準論)
- 22回 違憲審査基準論の展開(ドイツ型三段階審査論)
- 23回 立法裁量論
- 24回 制度準拠審査とベースライン論
- 25回 司法救済論①(刑事訴訟における違憲審査)
- 26回 司法救済論②(民事訴訟における違憲審査)
- 27回 司法救済論③(行政訴訟・抗告訴訟における違憲審査)
- 28回 司法救済論④(行政訴訟・客観訴訟における違憲審査)
- 29回 司法救済論⑤(違憲判決の方法・効果)
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は報告準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法特別研究II 【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

受講者の研究テーマに応じて、関連する憲法学的知見を学び、学説、判例を検討し、問題意識を深めることを通じて、修士論文ないし特定課題研究へ向けた準備を行うことを目的とする

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて、適宜指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 取り上げる文献や判決の決定
- 第4回 基本書読解① -研究テーマに関する部分の報告I
- 第5回 基本書読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第6回 基本書読解③ -研究テーマに関する部分の報告II
- 第7回 基本書読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第8回 専門文献読解① -研究テーマに関する専門文献の報告I
- 第9回 専門文献読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第10回 専門文献読解③ -研究テーマに関する専門文献の報告II
- 第11回 専門文献読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第12回 専門文献読解⑤ -研究テーマに関する専門文献の報告III
- 第13回 専門文献読解⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第14回 研究テーマの再検討
- 第15回 前半のまとめ
- 第16回 判例研究① -研究テーマに関連する判決の報告I
- 第17回 判例研究② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第18回 判例研究③ -研究テーマに関連する判決の報告II
- 第19回 判例研究④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第20回 判例研究⑤ -研究テーマに関連する判決の報告III
- 第21回 判例研究⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第22回 論文作成へ向けて① -テーマの明確化
- 第23回 論文作成へ向けて② -全体構成I
- 第24回 論文作成へ向けて③ -全体構成II
- 第25回 論文作成へ向けて④ -全体構成III
- 第26回 論文作成へ向けて⑤ -収集文献・資料の再検討I
- 第27回 論文作成へ向けて⑥ -収集文献・資料の再検討II
- 第28回 論文作成へ向けて⑦ -収集文献・資料の再検討III
- 第29回 論文作成へ向けて⑧ -工程表の確定
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の研究報告内容：50%、議論・検討への参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、各回の課題や研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、修士学位論文を作成するための研究指導である。
受講者の関心領域に応じて論文作成に必要な文献を選び、それらを順次検討するとともに論文作成に向けた指導を行う。
授業では、自ら発見した問題を論理的かつ批判的に分析・検討し、論文として完成させることを目標とする。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回	ガイダンス	第16回	使用文献についての報告と検討(主要文献3)
第 2回	修士論文作成の手法について	第17回	使用文献についての報告と検討(主要文献4)
第 3回	関心領域の確認	第18回	使用文献についての報告と検討(その他の文献1)
第 4回	基本的文献の選択(1 日本語文献)	第19回	使用文献についての報告と検討(その他の文献2)
第 5回	基本的文献の選択(2 外国語文献)	第20回	使用文献についての報告と検討(その他の文献3)
第 6回	その他の文献についての検討(1 判例等)	第21回	論文内容の報告と検討(序論)
第 7回	その他の文献についての検討(2 その他)	第22回	論文内容の報告と検討(第1章)
第 8回	テーマの確定	第23回	論文内容の報告と検討(第1章その2)
第 9回	論文構想の検討(1 視角)	第24回	論文内容の報告と検討(第2章)
第10回	論文構想の検討(2 構成)	第25回	論文内容の報告と検討(第2章その2)
第11回	論文構想の検討(3 結論)	第26回	論文内容の報告と検討(第3章)
第12回	使用文献のまとめ(1 主要文献)	第27回	論文内容の報告と検討(第3章その2)
第13回	使用文献のまとめ(2 その他の文献)	第28回	全体のまとめ(第4章以下)
第14回	使用文献についての報告と検討(主要文献1)	第29回	全体のまとめ(結論)
第15回	使用文献についての報告と検討(主要文献2)	第30回	全体のまとめ(総合)

以降 関心領域の確認、基本的な文献の選択、文献についての解説、その他の文献の検討、テーマの確定、

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組の状況 100%(質疑、報告の内容、出席の状況等を含む。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマに関する文献の収集と整理を行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法特別研究II 【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民法の中の物権の分野について研究をしたい。物権分野の数々の論点について、いわゆる判例や学説の議論を見ながら、私見を考えてゆく。この科目は、主として研究者を目指す人が履修する科目であるので、研究者の議論を重視し、参加者による報告を基礎に進めてゆきたい。この科目を履修することで、研究者の視点で民法を考える能力が養われるでしょう。

教科書 /Textbooks

物権法の本であれば、なんでも良い。と言うか、物権法の主要な本はすべて見る必要がある。図書館で、随時、物権に関連する書籍を参照してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 我妻栄『近代法における債権の優越的地位』(有斐閣)
- 川島武宜『所有権法の理論』(岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 ガイダンス | 2 物権と債権の違いに関する諸問題 |
| 3 物権法定主義をめぐる諸問題 | 4 慣習法上の物権をめぐる諸問題 |
| 5 物権的請求権をめぐる諸問題 | 6 物権行為をめぐる諸問題 |
| 7 所有権の移転時期をめぐる諸問題 | 8 公示制度をめぐる諸問題 |
| 9 登記請求権をめぐる諸問題 | 10 177条の第三者の客観的範囲をめぐる諸問題 |
| 11 177条の第三者の主観的範囲をめぐる諸問題 | 12 無効・取消・解除と登記をめぐる諸問題 |
| 13 相続と登記をめぐる諸問題 | 14 時効と登記をめぐる諸問題 |
| 15 中間省略登記をめぐる諸問題 | 16 動産物権変動をめぐる諸問題 |
| 17 即時取得をめぐる諸問題 | 18 占有をめぐる諸問題 |
| 19 所有権の意義をめぐる諸問題 | 20 相隣関係・囲繞地通行権をめぐる諸問題 |
| 21 付合・混和・加工をめぐる諸問題 | 22 共有をめぐる諸問題 |
| 23 用益物権をめぐる諸問題 | 24 留置権をめぐる諸問題 |
| 25 先取特権をめぐる諸問題 | 26 質権をめぐる諸問題 |
| 27 抵当権をめぐる諸問題 | 28 物上代位をめぐる諸問題 |
| 29 譲渡担保をめぐる諸問題 | 30 その他の非典型担保をめぐる諸問題 |

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の報告(50%)とレポート(50%)を総合考慮して、評価する。レポートは、学期終了時に提出してもらう。テーマは、物権法の中で特に興味を持った点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々、民法関連の本を読むことが望まれる。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者を目指す場合、上記2冊は「必読」文献であり、この2冊をきちんと読むことが、そもそもの出発点であろう。

キーワード /Keywords

物権、担保物権

民法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期 (バ
ア)
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

研究者コース履修者に修士論文作成の指導をすることを目的とした授業です。
「専門基礎科目」や「専門科目」で修得した、調査研究方法、高度な民法の専門知識、分析能力、総合的な視野を活かして、自らが選択したテーマについて研究を一層深め、その成果を形にさせていただきます。
必要があれば、各自の研究に役立つ範囲で、ドイツ民法又はフランス民法に関する外国文献と一緒に読もうと思っています。
到達目標は以下の通りです。
・ 問題を発見し、問題解決に向けて説得力のある議論が展開できるようになっていただきます。
・ 研究者に必要な素養を身につけ、主体的に研究に取り組むことができるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

指定はありません。外国文献を購読する場合にはコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究テーマ策定
- 3回 研究テーマ、研究概要報告、基本文献・資料の選択
- 4回 研究方法の検討、論点抽出
- 5回 論点報告 - その1【邦語基本文献】
- 6回 論点報告 - その2【邦語関連文献】
- 7回 論点報告 - その3【外国語文献】
- 8回 論点報告 - その4【大審院判例】
- 9回 論点報告 - その5【最高裁判例】
- 10回 報告内容の中間のまとめ - 論点整理、補充指導
- 11回 論点追加報告 - その1【邦語文献】
- 12回 論点追加報告 - その2【外国語文献】
- 13回 論点追加報告 - その3【大審院判例】
- 14回 論点追加報告 - その4【最高裁判例】
- 15回 報告内容のまとめ、研究内容の再確認
- 16回 論文構成指導 - その1【邦語文献】
- 17回 論文構成指導 - その2【外国語文献】
- 18回 論文構成指導 - その3【大審院判例】
- 19回 論文構成指導 - その4【最高裁判例】
- 20回 論文作成指導 - その1【邦語文献】
- 21回 論文作成指導 - その2【外国語文献】
- 22回 論文作成指導 - その3【大審院判例】
- 23回 論文作成指導 - その4【最高裁判例】
- 24回 論文内容の報告 - その1 (残された課題の整理 - 邦語文献)
- 25回 論文内容の報告 - その2 (残された課題の整理 - 外国語文献)
- 26回 論文修正指導 - その1【邦語文献部分】
- 27回 論文修正指導 - その2【外国語文献部分】
- 28回 論文修正指導 - その3【大審院判例部分】
- 29回 論文修正指導 - その4【最高裁判例部分】
- 30回 まとめ - 研究成果の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・10% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生が主体的に取り組むのであれば研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジュメを作成してください。

民法特別研究II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法特別研究II 【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

修士論文・特定課題研究成果の作成のための準備およびその作成を目的とする。より高度な刑法的知識の養成、より高度な体系的思考力・刑法的思考力を身に付けることを目指す。授業テーマは、受講生の希望を参酌して決定する。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業テーマに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業テーマの選定
- 第2回 授業テーマの論点の検討
- 第3回 参考文献の選定
- 第4回 参考文献の論旨の要約(邦文献)
- 第5回 批判的参考文献の論旨の要約(邦文献)
- 第6回 参考文献の論旨の要約(外国文献)
- 第7回 批判的参考文献の論旨の要約(外国文献)
- 第8回 参考文献の検討・考察(邦文献)
- 第9回 参考文献の検討・考察(外国文献)
- 第10回 参考判例の選定
- 第11回 参考判例の要約(最高裁判例)
- 第12回 参考判例の要約(下級審判例)
- 第13回 参考判例の要約(外国上級審判例)
- 第14回 参考判例の要約(外国下級審判例)
- 第15回 参考判例の検討・考察(日本)
- 第16回 参考判例の検討・考察(外国)
- 第17回 参考文献の論旨の文章化(レポート)
- 第18回 参考文献レポートの検討・指導
- 第19回 参考判例の要約の文章化(レポート)
- 第20回 参考判例レポートの検討・指導
- 第21回 修士論文・特定課題研究成果の構成についての検討
- 第22回 追加的資料の選定
- 第23回 追加的資料の要約(邦文献)
- 第24回 追加的資料の要約(外国文献)
- 第25回 追加的資料の検討・考察
- 第26回 修士論文・特定課題研究成果の第1次提出
- 第27回 第1次提出修士論文・特定課題研究成果の検討・指導、修正点の検討
- 第28回 修士論文・特定課題研究成果の第2次提出
- 第29回 第2次提出修士論文・特定課題研究成果の検討・指導
- 第30回 最終の修士論文・特定課題研究成果の提出・総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文・特定課題研究成果の評価(100%)による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマに関する情報・資料の収集および研究テーマの問題点(論点)を明確にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

受講生の選択した研究テーマについて、主に理論的および方法論的問題に焦点をあてて、英米の重要文献を批判的に検討する。上記の検討を踏まえて、各自の研究テーマに即した「リサーチ・デザイン」の検討・作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(修士論文とは)
- 第2回 修士論文執筆の作法
- 第3回 研究者の倫理
- 第4回 関心領域(暫定的研究テーマ)の確認
- 第5回 リサーチ・デザインの策定
- 第6回 文献調査(1)――邦語文献収集
- 第7回 文献調査(2)――外国語文献収集
- 第8回 文献調査(3)――第一次文献リスト作成
- 第9回 参考文献についての解説・助言
- 第10回 その他の文献・資料などの分析・検討
- 第11回 テーマの確定
- 第12回 問題設定
- 第13回 分析枠組――論文構成の検討
- 第14回 論文の体裁についての指導
- 第15回 プロスペクタスの提出
- 第16回 中間報告①序論
- 第17回 中間報告②問題設定についての論評及び修正
- 第18回 中間報告③過去の研究又は文献の検討
- 第19回 中間報告④過去の研究又は文献の検討についての論評及び修正
- 第20回 中間報告⑤理論的枠組の検討
- 第21回 中間報告⑥理論的枠組についての論評及び修正
- 第22回 中間報告⑦分析方法の検討
- 第23回 中間報告⑧分析方法についての論評及び修正
- 第24回 中間報告⑨分析結果
- 第25回 中間報告⑩分析結果についての論評及び修正
- 第26回 中間報告⑪結論及び考察
- 第27回 中間報告⑫結論及び考察についての論評及び修正
- 第28回 最終報告
- 第29回 最終報告についての論評及び修正
- 第30回 論文の完成及び提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文作成の基礎づくりのために、刑事法関連科目の受講を薦めます。

履修上の注意 /Remarks

社会科学系大学院生向けの「論文の書き方について」の教本を一冊手元に置いておくことが論文執筆には有益です。論文の体裁については、各専門領域の学会誌・機関誌の投稿規程(執筆ガイドライン)などを参照しておくことが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法特別研究II 【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文の作成を支援することを目的とします。
本講義は、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、必用な国際法上の議論に触れ、その理解を深めるための機会を提供するものです。
受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていっこうに構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の問題関心領域とは異なったテーマであったとしても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れてください。

教科書 /Textbooks

必要に応じ、受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の能力・人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

昨年度からの継続指導の該当者はいないので、1年めの指導計画・内容(ほぼ初学者・単独の場合)を例示する。

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 修士論文で扱いたいテーマの確認
- 第3回 テーマに関する資料収集① 邦語文献【書籍・論文】
- 第4回 テーマに関する資料収集② 外国語文献【書籍・論文】
- 第5回 テーマに関する資料収集③ WEB【国内の公的機関等】
- 第6回 テーマに関する資料収集④ WEB【外国の公的機関等】
- 第7回 テーマに関する資料収集⑤ WEB【国際機関】
- 第8回 テーマに関する資料収集⑥ 判例【国内】
- 第9回 テーマに関する資料収集⑦ 判例【外国・国際】
- 第10回 邦語文献を用いた研究の進め方
- 第11回 邦語文献の精読①
- 第12回 邦語文献の精読②(続き)
- 第13回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」① 【論文A】
- 第14回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」② 【論文B】
- 第15回 1学期進捗状況の振り返りと夏季休暇中の作業の確認
《夏季休暇》
- 第16回 判例を用いた研究の進め方
- 第17回 判例研究① 判決文の精読
- 第18回 判例研究② 判決文の精読(続き)
- 第19回 判例研究③ 原判決等との比較検討
- 第20回 判例研究④ 判例評釈等の活用
- 第21回 レジユメを用いた判例研究の「報告」
- 第22回 外国語文献を用いた研究の進め方① 語学力の確認
- 第23回 外国語文献を用いた研究の進め方② パラグラフリーディングと論文構造の把握(一読によるあらレジユメの作成)
- 第24回 外国語文献の精読①
- 第25回 外国語文献の精読②(続き)
- 第26回 外国語文献の精読③(続き)
- 第27回 外国語文献の精読④(続き)
- 第28回 レジユメを用いた外国語文献の「報告」
- 第29回 修士論文で扱いたいテーマの明確化
- 第30回 2学期進捗状況の振り返りと2年次に向けての作業の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

国際法特別研究II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。
まずは ninomiya@kitakyu-u.ac.jp まで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した(させられた)という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えています。
院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

キーワード /Keywords

【修士論文】 【指導】 【国際法】

法哲学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

研究者コースを履修する学生に、法哲学領域に関する修士論文の作成を指導し、修士論文の構想の確定を目指します。その際、「専門基礎科目」や「専門科目」などの学習を通してこれまでに修得してきた、調査研究方法や分析能力、高度な専門知識や総合的観点をベースとして、自らが選択したテーマについて、研究を専門的に深化させていきます。論文の完成に向けて、邦語文献の検討だけではなく、外国語文献の読解・検討も行います。授業で扱う具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定します。

この授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①問題を発見し、それを法哲学的観点から論理的かつ批判的に分析し議論する能力を身につけ、研究者として主体的に研究に取り組むことが出来るようになること。
- ②多様な法的問題に対応するために必要となる、高度な法的思考力や総合的な判断力を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ 修士論文とは
- 第2回 研究テーマ策定
- 第3回 研究方法の検討
- 第4回 先行研究の調査と基本文献・資料の選定
- 第5回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討①【邦語文献】
- 第6回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討②【外国語文献】
- 第7回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討③【データベース等の利用】
- 第8回 研究テーマに関連する報告と議論①【邦語一次文献】
- 第9回 研究テーマに関連する報告と議論②【邦語二次文献】
- 第10回 研究構想一次報告
- 第11回 研究構想一次報告の検討
- 第12回 研究構想一次報告の修正
- 第13回 研究テーマに関連する報告と議論③【外国語一次文献】
- 第14回 研究テーマに関連する報告と議論④【外国語二次文献】
- 第15回 1学期の進捗状況の確認と夏季休暇中の課題の確認
- 第16回 夏季休暇中の研究進行状況の確認
- 第17回 基本文献の再選定
- 第18回 邦語一次文献についての報告
- 第19回 邦語一次文献についての議論
- 第20回 邦語一次文献報告への論評
- 第21回 邦語二次文献についての報告・議論・論評
- 第22回 外国語一次文献についての報告
- 第23回 外国語一次文献についての議論
- 第24回 外国語一次文献報告への論評
- 第25回 外国語二次文献についての報告・議論・論評
- 第26回 修士論文で利用する文献についての中間総括的報告と議論
- 第27回 修士論文の構想報告
- 第28回 修士論文の構想報告についての議論
- 第29回 修士論文の構想報告の修正
- 第30回 2学期の進捗状況の確認と2年次の課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法哲学特別研究II 【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回で扱う予定の文献がある場合は、それを事前にきちんと読み、理解した上で質問を考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

専門基礎科目の「法律文献調査」では、文献調査の方法や引用の仕方なども学びますので、しっかりと習得して下さい。

なお、外国語文献の読解に必要な英語力は、当然の前提として要求されます。それに加えて、専門として扱う分野によっては、ドイツ語などの第二外国語の習得が必要になる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的に研究に取り組む姿勢を尊重したいと考えています。

キーワード /Keywords

法哲学 研究指導 修士論文

私法領域特定課題研究II【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 他

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

専修コース履修者を対象に特定課題研究完成にむけた指導をすることを目的に開講している科目です。複数の教員による指導体制の下で、「専門基礎科目」や「専門科目」を履修することによって修得した法的素養を活かして、特定課題研究に主体的に取り組んでいただきます。到達目標は次の通りです。

- ・「専門基礎科目」で身につけた調査研究方法、「専門科目」で修得した高度な専門的・実践的知識と法的思考方法を活かし、問題解明にむけて主体的に行動することができるようになっていただきます。
- ・特定の法的課題を深く掘り下げて検討し、説得力のある解決策が提示できるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があると思います。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 集団指導教員、指導内容の相談
- 2回 代表指導教員による指導 - 研究テーマ、研究内容の検討
- 3回 代表指導教員による指導 - 研究方法の確認、基本文献・資料の選択
- 4回 代表指導教員による指導 - 研究指導計画策定
- 5回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その1【邦語基本文献】
- 6回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その2【邦語関連文献】
- 7回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その3【大審院判例】
- 8回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その4【最高裁判例】
- 9回 集団指導教員①による指導 - 研究報告 - その5【下級審判例】
- 10回 集団指導教員①による指導 - 追加報告【外国語文献】
- 11回 集団指導教員①による指導 - 研究報告のまとめ
- 12回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その1【邦語基本文献】
- 13回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その2【邦語関連文献】
- 14回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その3【大審院判例】
- 15回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その4【最高裁判例】
- 16回 集団指導教員②による指導 - 研究報告 - その5【下級審判例】
- 17回 集団指導教員②による指導 - 追加報告【外国語文献】
- 18回 集団指導教員②による指導 - 研究報告のまとめ
- 19回 代表指導教員による指導 - 研究内容中間報告、検討課題の整理
- 20回 代表指導教員による指導 - 研究報告 - その1【邦語基本文献】
- 21回 代表指導教員による指導 - 研究報告 - その2【邦語関連文献】
- 22回 代表指導教員による指導 - 研究報告 - その3【大審院判例】
- 23回 代表指導教員による指導 - 研究報告 - その4【最高裁判例】
- 24回 代表指導教員による指導 - 研究報告 - その5【下級審判例】
- 25回 代表指導教員による指導 - 論文(特定課題)構成指導 - その1【文献部分】
- 26回 代表指導教員による指導 - 論文(特定課題)構成指導 - その2【判例部分】
- 27回 代表指導教員による指導 - 論文(特定課題)研究内容修正指導 - その1【文献部分】
- 28回 代表指導教員による指導 - 論文(特定課題)研究内容修正指導 - その2【判例部分】
- 29回 代表指導教員による指導 - 論文(特定課題)研究内容修正指導 - その3【全体の構成】
- 30回 代表指導教員による指導 - まとめ - 研究成果の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み…10% 特定課題研究成果…90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生が主体的に取り組むのであれば研究成果は得られません。研究計画をしっかりと立て、その計画に沿って自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジュメを作成してください。

私法領域特定課題研究II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

指導の詳細は相談の上決定します。初回のガイダンスには必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公法領域特定課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 他

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、専修コースの大学院生が特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。
授業においては、受講者の関心領域に応じて特定課題研究成果を作成することをとおして、高度な専門職業人または高度な法的素養のある人材として活躍しうる水準に到達することを目標とする。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心領域に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	第16回	使用文献についての報告と検討(主要文献3)
第2回	特定課題研究とは何か	第17回	使用文献についての報告と検討(主要文献4)
第3回	関心領域の確認	第18回	使用文献についての報告と検討(その他の文献1)
第4回	基礎的文献の選択(1 日本語文献)	第19回	使用文献についての報告と検討(その他の文献2)
第5回	基礎的文献の選択(2 外国語文献)	第20回	使用文献についての報告と検討(その他の文献3)
第6回	その他の文献の検討(1 判例等)	第21回	特定課題研究内容の報告と検討(序論)
第7回	その他の文献の検討(2 その他)	第22回	特定課題研究内容の報告と検討(第1章)
第8回	テーマの確定	第23回	特定課題研究内容の報告と検討(第1章その2)
第9回	テーマの構想の検討(1 視角)	第24回	特定課題研究内容の報告と検討(第2章)
第10回	テーマの構想の検討(2 構成)	第25回	特定課題研究内容の報告と検討(第2章その2)
第11回	テーマの構想の検討(3 結論)	第26回	特定課題研究内容の報告と検討(第3章)
第12回	使用文献のまとめ(1 主要文献)	第27回	特定課題研究内容の報告と検討(第3章その2)
第13回	使用文献のまとめ(2 その他の文献)	第28回	全体のまとめ(第4章以下)
第14回	使用文献についての報告と検討(主要文献1)	第29回	全体のまとめ(結論)
第15回	使用文献についての報告と検討(主要文献2)	第30回	全体のまとめ(総合)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組の状況 100% (質疑への対応、報告の内容、出席の状況等を含む。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の関心領域にあわせて文献、資料を収集し整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策調査法【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 他

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから大学院で研究する学生が、大学院で研究するに際して必要となる（研究の）方法論、調査方法、修士論文執筆のために知っておくべき基本的な知識を提供することにある。大学院での研究といっても、政策科学系の学生は、学生の専門によって方法論等が異なるため、講義は指導教員を中心とした集団指導体制で行うことを予定している。

教科書 /Textbooks

教科書は第一回目の講義において担当教員等が指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、各回ごとに教員が紹介する予定であるが、とりあえず以下のものを挙げておく。

- 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。
- 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）。
- 松田憲忠・竹田憲史『社会科学のための計量分析入門-データから政策を考える』（ミネルヴァ書房、2012年）。
- 真淵勝監訳『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』（勁草書房、2004年）。
- ユージン・バーダック(著)、白石賢司他(本訳)『政策立案の技法』（東洋経済新報社、2012年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入
2. いかにして政策を研究するのか
3. 先行研究と文献リストの作成
4. リサーチ・クエスションをたてる
5. 仮説をたてる
6. 資料やデータを収集する
7. 仮説を検証する
8. 政策を提言する
9. 論文の書き方
10. 定量的分析と定性的分析
 - 1 1. 定量的分析 (1)
 - 1 2. 定量的分析 (2)
 - 1 3. 定性的分析 (1)
 - 1 4. 定性的分析 (2)
 - 1 5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、毎回の授業における報告及び授業への参加度と学期末のレポートによる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの回の授業担当者の指示に従って授業の準備をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学III 【夜】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①政治学の理解に必要な専門知識を修得すること
- ②政治学の学術論文を読みこなし、問題点を析出できるようになること
- ③日本政治への理解を深める
- ④研究の方法や進め方について参考となる点を修得する

以上の目標から、日本の政治を対象とした論文、著作の輪読を中心とする。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 問題意識の報告
- 第3回 研究報告①
- 第4回 研究報告②

- 第5回 文献輪読①理論とモデル【概念】
- 第6回 文献輪読②質的方法【インタビュー】
- 第7回 文献輪読③量的方法【アンケート調査】

- 第8回 文献輪読④政策過程・理論研究【仮説】
- 第9回 文献輪読⑤政策過程・事例研究【実証】
- 第10回 文献輪読⑥政策過程【日本型多元主義】

- 第11回 文献輪読⑦選挙制度【比例代表制】【小選挙区制】
- 第12回 文献輪読⑧議会制度【議院内閣制】【大統領制】
- 第13回 文献輪読⑨政治過程【2つの民主主義】
- 第14回 研究報告③
- 第15回 研究報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (50%)、ゼミへの積極的な参加 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

討論に積極的に参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学III 【夜】

キーワード /Keywords

政治学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①政治学の理解に必要な専門知識を修得すること
- ②政治学の学術論文を読みこなし、問題点を析出できるようになること
- ③日本政治への理解を深める
- ④研究の方法や進め方について参考となる点を修得する

以上の目標から、日本の政治を対象とした論文、著作の輪読を中心とする。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 問題意識の報告
- 第3回 研究報告①
- 第4回 研究報告②

- 第5回 文献輪読①理論とモデル【分類】
- 第6回 文献輪読②質的方法【参与観察】
- 第7回 文献輪読③量的方法【多変量解析】

- 第8回 文献輪読④政策過程・理論研究【理論負荷性】
- 第9回 文献輪読⑤政策過程・事例研究【過程追跡】
- 第10回 文献輪読⑥政策過程【権力構造論】

- 第11回 文献輪読⑦選挙制度【個人投票】【政党投票】
- 第12回 文献輪読⑧議会制度【本会議中心主義】
- 第13回 文献輪読⑨政治過程【二環構造】
- 第14回 研究報告③
- 第15回 研究報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (50%)、ゼミへの積極的な参加 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

討論に積極的に参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学Ⅳ【夜】

キーワード /Keywords

行政学III 【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は、行政学の一般的包括的学習を目的とする。原則、テキストを輪読し、行政学の基本的内容を身につけた上で、議論を行う。

教科書 /Textbooks

真淵勝、『行政学』有斐閣、2009年ほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 官僚制
- 第2回 国家公務員
- 第3回 行政ネットワーク
- 第4回 行政管理と行政改革
- 第5回 官民関係
- 第6回 行政責任
- 第7回 大都市行政
- 第8回 政策過程の理論
- 第9回 官僚制の合理性と非合理性
- 第10回 官僚制のモデル①【演繹的アプローチ】
- 第11回 官僚制のモデル②【帰納的アプローチ】
- 第12回 中央地方関係
- 第13回 行政学説史
- 第14回 日本の行政システム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、中間論文・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読において、事前準備は必須の作業である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代行政研究の最近の動向をとりあげて、具体的な現象にも触れながら、検討を行うこととする。とりわけ、近年の行政研究において話題になるようになってきている「ガバナンス」概念に注目する。ガバナンス概念は、分野によってその使用法は異なるが、とりわけイギリス行政学においては、政府機能の拡大に伴うビッグ・ガバメントの成立によって、政府機構を通じた公共的問題の解決能力の限界が明らかにされる中で、各種の公共的問題に対処する複合的な組織間ネットワーク形成が図られるようになってきた状況をとらえる概念として使われている。また、政治や行政が、政府、住民、企業の間で一層の相互依存の深化をみせるようになったことをとらえ、新しい政治と行政のあり方とそれにかかわる主体間の関係をとらえようとする概念だとすることもできる。本講義は、こうしたガバナンス概念に関する議論と分析を中心に進めていく。

教科書 /Textbooks

Bell, S and A. Hindmoor, Rethinking Governance, Cambridge University Press.ほか内外の文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、国内外ともに数えきれないほどあるので、授業中にその都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN (担当者自己紹介、受講者自己紹介、授業のガイダンスなど)
- 第2回 ガバナンス概念についての講義【ガバナンス】【ロッド・ローズ】【ピエールとピーターズ】
- 第3回 ガバナンス概念についての講義【社会中心モデル】【国家中心モデル】
- 第4回 Bell and Hindmoor 第1章【国家中心アプローチ】
- 第5回 Bell and Hindmoor 第2章【国家の再発見】
- 第6回 Bell and Hindmoor 第3章【メタガバナンスと国家の能力】
- 第7回 Bell and Hindmoor 第4章【ハイアラーキーとトップダウンガバナンス】
- 第8回 Bell and Hindmoor 第5章【説得を通じたガバナンス】
- 第9回 Bell and Hindmoor 第6章【市場と契約を通じたガバナンス】
- 第10回 Bell and Hindmoor 第7章【コミュニティ参加を通じたガバナンス】
- 第11回 Bell and Hindmoor 第8章【アソシエーションガバナンス】
- 第12回 Bell and Hindmoor 第9章【結論】【国家中心アプローチ】【社会中心アプローチ】
- 第13回 別文献の購読①【ネットワーク・ガバナンス論】
- 第14回 別文献の購読②【参加型ガバナンス論】
- 第15回 議論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、中間論文・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの輪読のためには、相応の準備が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論III 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

20世紀には急速な人口増加や科学技術の進展により、人類は大量のエネルギーを消費、同時に環境破壊を繰り返した。1980年代後半から環境に配慮し、持続可能な社会をつくらうと世界的な動きが出てきた。その教育的な動きとして2002年からのESD(持続可能な開発のための教育)がある。参加型手法を用いて、全体的なアプローチを行い、すべての年齢、階層の人々を対象に行われる。実際の生活に応用することで、生活の質が向上する。大学ではあまり積極的に教えられることのない、学習する機会のないESDを、実践活動を交えながら、学習したい。このESDは、国連大学やユネスコを通して途上国でも広がりを見せている。したがって、途上国で取り組まれているESDとはどのようなものかも学習したい。その際、北九州市で取り組まれている「まちなかESDセンター」事業の中にフェアトレードやNGOによるカンボジア支援活動などがあるので、同センターと連携し、ESDの実践的な学習を行っていききたい。その際、ファシリテーションスキル取得も同時に行う。以上によって、問題発見・理解力、問題解決能力や実践力が身に付き、自らの生活の質も変えることが可能となる。

教科書 /Textbooks

* 必要に応じて配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 生方秀紀他編『ESDをつくる～地域でひろく未来への教育』ミネルヴァ書房、2010年、2800円 * 開発教育協会内ESD開発教育カリキュラム研究会編『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』学文社、2010年、2400円
- * 中山修一他編『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院、2011年、5600円
- * 森良『力を引き出すもりもりファシリテーション』まつやま書房、2007年、1500円
- * Education in Human Values-teachers guide, Institute of Satya Sai Education, Fiji, 2006

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ESDと生活についての議論
- 第2回 『ESDをつくる』の輪読と議論(全体概念の理解)
- 第3回 『ESDをつくる』の輪読と議論(地域の教育力=「ローカル知」)
- 第4回 『ESDをつくる』の輪読と議論(サブサハラとアラスカの持続可能な開発)
- 第5回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(小学校・中学校用ESD)
- 第6回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(高校・大学用ESD)
- 第7回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(インドネシアのパーム油を教材にしたを対象にしたESD)
- 第8回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(先進国のESD)
- 第9回 『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』の輪読と議論(地域の探求)
- 第10回 『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』の輪読と議論(世界へのつなげ方)
- 第11回 『力を引き出すもりもりファシリテーション』の輪読と議論(ファシリテーション概念の理解)
- 第12回 『力を引き出すもりもりファシリテーション』の輪読と議論(ファシリテーション手法の理解)
- 第13回 「北九州まなびとESDステーション」事業の全体把握
- 第14回 「北九州まなびとESDステーション」での各プロジェクトの理解とワークショップへの参加
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...50% 小課題の提出...20% まとめ能力とプレゼン能力...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に文献は読了のこと、新聞記事を読んでおくこと、英語にもある程度精通することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課外実践活動も行うので、積極性を身に付け、コミュニケーション能力もある程度保持しておいてほしい。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育) 途上国の環境・社会破壊 「北九州まなびとESDステーション」 開発教育

途上国開発論Ⅳ【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

以前に比べ、開発途上国の経済成長は著しい。しかし、同時に、その過程で日本が経験したような水俣病をはじめとする公害や環境破壊が目立って現れてきている。特に、力を持たない貧困層にその影響が及び、被害が出ているのは確かである。本授業では、途上国の開発の影の部分の環境破壊、それによる社会への影響、そしてその対策の模索を受講生との議論を交えながら学習していく予定である。なかでも、後半には、もう少し焦点を絞り、指導教員の専門領域である廃棄物管理の社会配慮といった側面を取り上げたい。それらの学習を通じて、知識の吸収、理解力、英語の読解力や論理的思考力などの向上が図られると考えられる。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
必要に応じてその都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Robert B. Potter et al., Geographies of Development—an introduction to development studies 3rd ed., Pearson Education Ltd, Harlow, 2008
恩田守雄『開発社会学～理論と実践』ミネルヴァ書房、2001年
古賀正則他編『移民から市民へ～世界のインド系コミュニティ』東京大学出版会、2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発途上国における諸問題の理解
- 第2回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 1 (開発に関する理論と戦略の歴史)
- 第3回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 2 (グローバリゼーションの中の開発)
- 第4回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 3 (開発過程下の人々)
- 第5回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 4 (都市における開発)
- 第6回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 5 (農村における開発)
- 第7回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 6 (人の移動と資本の流れ)
- 第8回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 1 (社会開発のための社会分析)
- 第9回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 2 (国際協力としての実践的手法)
- 第10回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 3 (参加型社会開発の実践)
- 第11回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 1 (社会配慮の全体概念の理解)
- 第12回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 2 (廃棄物をめぐる環境教育)
- 第13回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 3 (清掃人を取り巻く環境)
- 第14回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 4 (ウエイスト・ピッカーと児童労働)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...40% 小課題の提出...20% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献によってはある程度の英語の読解力が必要とされるので、日常的に英語力を磨いておくこと。また、日ごろから自らの生活を顧みておくこと。途上国との関係がそこに現れている。

履修上の注意 /Remarks

途上国に関心のある者には特に受講を勧めたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の履修後は、途上国現地に出かけ、自らの目で観察調査をしてきてもらいたい。学部学生と一緒にスタディツアーに出かけることもあるので、一緒に参加することを勧める。

キーワード /Keywords

開発途上国 水俣病 環境・社会破壊 廃棄物管理 社会配慮

産業政策論III 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、我が国の都市環境は大きく変化している。その中で地方都市は、地域の産業を育成し、人口の流出を防ぎ、都市の活性化と持続的な発展に向けた努力を続けている。

この授業では、地域の技術系企業の振興を主たる目的として、従来の国の産業政策を踏まえ、地域イノベーション・システムの確立に向けた地域産業政策のあり方を探る。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 国の産業政策の変遷に関する専門知識を習得する。
- ② 地方自治体の産業政策の概要を理解する。
- ③ 地域イノベーション・システムを確立することの重要性を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 わが国の産業政策の潮流
- 3回 産業政策と国土政策の関係
- 4回 地方自治体の産業政策の概要
- 5回 地方自治体の中小企業政策
- 6回 産業集積理論の変遷
- 7回 産業クラスター計画
- 8回 産業クラスター計画の課題
- 9回 技術系中小企業の課題
- 10回 技術移転の仕組み
- 11回 技術移転機関のあり方
- 12回 産業支援機関の機能
- 13回 地域の産業支援機関のあり方
- 14回 地域イノベーション・システム
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治体の動向や地域産業に関心を持ち、社会経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、我が国の都市環境は大きく変化している。その中で地方都市は、地域の産業を育成し、人口の流出を防ぎ、都市の活性化と持続的な発展に向けた努力を続けている。
この授業では、地域の競争力を高める観点から、産業政策のあり方を探る。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 産業政策における競争環境の重要性を理解する。
- ② 地方自治体における産業政策のあり方を理解する。

教科書 /Textbooks

マイケル.E.ポーター、(竹内弘高訳)(1999)『競争戦略論I』『競争戦略論II』ダイヤモンド社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 競争要因
- 3回 競争戦略の本質
- 4回 企業の価値連鎖
- 5回 情報技術の戦略性
- 6回 撤退障壁
- 7回 多角化企業の戦略
- 8回 北九州地域の技術系企業の実態I
- 9回 北九州地域の技術系企業の実態II
- 10回 競争力の源泉
- 11回 産業クラスター
- 12回 日本の産業クラスター計画
- 13回 企業立地
- 14回 企業誘致
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本の経済や産業に関心を持ち、その変化を知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論III 【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えている。例えば、公共政策研究の方法論を研究するために『公共政策学の基礎』を多角的視点から輪読したり、「まちづくり」を中心とした問題（たとえば、中心市街地の空洞化問題、限界集落・限界コミュニティの問題等）あるいは「ガバナンス」に関連する問題を取り上げ考察したいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋吉真雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにした。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 公共政策とは何か
- 第3回 公共政策学の系譜
- 第4回 公共政策のアクター
- 第5回 アジェンダ設定理論
- 第6回 政策問題の構造化
- 第7回 公共政策の手段
- 第8回 公共政策規範
- 第9回 公共政策の決定と諸理論
- 第10回 公共政策の実施
- 第11回 公共政策の評価
- 第12回 政策決定とアイデア
- 第13回 公共政策のガバナンス
- 第14回 公共政策とソーシャルキャピタル
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーションを含む) ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、公共政策の方法論に関する問題か、都市部の「限界コミュニティ」の問題や単身世帯急増など最先端の問題を取り上げ議論できればと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

芳賀祥泰編著『福祉の学校-安全・安心・快適な福祉国家を目指して-』（エルダーサービス、2010年）。

藤森克彦『単身世帯急増社会の衝撃』（日本経済新聞社、2010年）。

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 現代日本の公共政策とそのポイント(1)-少子高齢社会
- 第3回 現代日本の公共政策とそのポイント(2)-人口減少社会の到来
- 第4回 現代日本の公共政策とそのポイント(3)-巨額の財政赤字
- 第5回 現代日本の公共政策とそのポイント(4)-単身世帯の急増
- 第6回 現代日本の公共政策とそのポイント(5)-格差社会
- 第7回 限界集落とは何か
- 第8回 限界集落と事例研究
- 第9回 限界集落の再生
- 第10回 都市の限界コミュニティ
- 第11回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 第12回 限界コミュニティの再生
- 第13回 フードデザート、買物難民(弱者)とは?
- 第14回 買物難民(弱者)の対策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーション等も含む) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論III 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本の年金、医療、生活保護などをめぐる政策的論点を実践的に検討します。年金、医療、生活保護に関する図書・学術論文を講読し、受講生による報告と議論を行います。所得、世代や地域、など様々な立場の違いを理解し、解決策を考えます。議論の争点について、受講生が自らの考えを整理し、独自の見解を確立できるようになることを目標にします。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ベーシック・インカムとは
- 第2回 ベーシック・インカム導入の是非
- 第3回 福祉国家の三類型
- 第4回 福祉国家としての日本の特徴
- 第5回 基礎年金の税方式化の是非
- 第6回 公的年金の一元化の是非
- 第7回 第3号被保険者問題について
- 第8回 短時間労働者と年金
- 第9回 診療報酬について
- 第10回 混合診療導入の是非
- 第11回 高齢者医療制度について
- 第12回 後期高齢者医療制度の是非
- 第13回 生活保護について
- 第14回 生活保護の給付水準をめぐる議論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

福祉政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本の介護、保育、障害者福祉などをめぐる政策的論点を実践的に検討します。介護、保育、障害者福祉に関する図書・学術論文を講読し、受講生による報告と議論を行います。所得、世代や地域、など様々な立場の違いを理解し、解決策を考えます。議論の争点について、受講生が自らの考えを整理し、独自の見解を確立できるようになることを目標にします。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会福祉事業について
- 第2回 社会福祉サービスの事業主体
- 第3回 社会福祉法人の公益性
- 第4回 介護サービスと民間事業者
- 第5回 介護サービスへの民間事業者参入の是非
- 第6回 介護保険料の地域間格差の是非
- 第7回 介護の社会化は達成されたのか？
- 第8回 公立保育所民営化の是非
- 第9回 幼保一体化について
- 第10回 男女共同参画と少子化対策
- 第11回 少子化対策は無意味？
- 第12回 障害の概念について
- 第13回 障害者の一般就労について
- 第14回 社会的雇用について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論III 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「市場失敗」や社会問題の増加に伴い、政府の役割やその機能が多く議論されている。実際に、政府の組織、予算規模、政策対象も大きく拡大している。しかし、政府失敗や政策の失敗の事例も多く、「政府の失敗」「政策の失敗」に関する議論も多くなっている。

政府機能・役割・政府失敗・政策失敗に関する知識の取得。

①政府機能・役割に関する論文や著作を読んで議論する。

②政府失敗・政策失敗について議論する。

専門知識の活用能力を高める。

①政府失敗・政策失敗に関する知識を活用する。

②レポートや論文などで応用し、分析してみる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、「政府の失敗」「政策の失敗」に関する著作、論文を読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 林正義、小川光、別所俊一郎(2010)、公共経済学、有斐閣アルマ
- 建林正彦、曾我謙悟、待鳥聡史(2008)、比較政治制度論、有斐閣アルマ
- 惣宇利紀男(2003)、公共部門の経済学-政府の失敗、阿吽社

その他、制度論、The Principal-Agent Model やGame Theory 関連の論文や著作。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 関連書籍や議論の紹介。
 - 第2回 公共経済学I【市場失敗】
 - 第3回 公共経済学II【Free-rider、Public Goods】
 - 第4回 公共経済学III【公共経済と政策】
 - 第5回 公共経済学IV【理論】
 - 第6回 公共部門の経済学【政府の失敗に関する理解】
 - 第7回 公共部門の経済学【政策失敗：官僚、予算】
 - 第8回 公共部門の経済学【比較事例】
 - 第9回 比較政治制度論【制度論】
 - 第10回 比較政治制度論【比較分析】
 - 第11回 比較政治制度論【比較一環境事例】
 - 第12回 Game Theory 関連論文の議論。
 - 第13回 Game Theory やThe Principal-Agent Model 関連論文の議論。
 - 第14回 The Principal-Agent Model やガバナンス関連論文の議論。
 - 第15回 まとめ。
- その他、論文のコピーを配布する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの報告(60%) 議論(40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
参考文献の中で関連文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

環境政策論III 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治家、官僚、市民、政府機能、政府役割、政府失敗、政策失敗、

環境政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

環境問題：地球規模の環境問題、気候変動と農業・災害・都市の生活基盤との関係、福島事故と災害の問題など。
環境政策：温暖化対策、エネルギー政策、リスク管理政策などについての理解と専門知識の取得。

以上の内容、他のテーマに関する内容を研究する。

- ①環境問題や環境政策を理解するため、論文や著作を読んで議論し、理解力を高める。
- ②環境政策の形成過程を分析する理論的視座について勉強し、その議論を深める。

専門知識の活用能力を高める。

- ①環境政策の形成に関する専門的知識を応用する。
- ②環境政策の事例を取り上げ、分析してみる。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、環境問題や環境政策に関する論文、著作を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『環境経済学』（宮本憲一著、岩波書店、¥3,990）
- 『環境社会学』（船橋晴俊著 成文堂 ¥2,700）
- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『脱原子力の運動と政治-日本のエネルギー政策の転換は可能か』（本田 宏著 北海道大学図書刊行会 ¥6,300）

その他 英文、リスク管理関連の論文のコピーを配布する。また、視聴覚資料 (youtube、DVD) を参考する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容と本の説明、紹介。
- 第2回 環境問題の社会史【人間生活と環境】
- 第3回 環境問題の社会史【環境問題と社会史】
- 第4回 環境経済学【環境問題と経済学】
- 第5回 環境経済学【政策手段】
- 第6回 環境経済学【自律協定と排出取引権】
- 第7回 【温暖化問題】
- 第8回 【エネルギーイシューと論点】
- 第9回 【原子力と再生エネルギー】
- 第10回 【再生可能エネルギーの政治学】
- 第11回 【再生可能エネルギーの経済学】
- 第12回 【脱原子力の運動と政治】
- 第13回 【リスク管理政策】
- 第14回 アメリカでの研究、考察
- 第15回 海外での研究、考察、授業の総括

その他、論文や資料を読み、議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告 (70%)、レポート (30%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

政策過程論、環境政策を受講すること。
論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
参考文献を参照し、読むこと。

環境政策論Ⅳ【夜】

履修上の注意 /Remarks

論文や記事などを読んで、論者の問題意識、論点について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「環境」というのは、単なる自然環境ではなく、人間生活を可能とするミナモトであり、人間と社会経済との関係をつなぐ媒介でもあります。環境は、人々の考え方、文化、そして制度によって異なる現象であります。

「環境」の在り方を見つめることは、「社会構成原理」や「人間社会の在り方」を見つめることにもなります。このような議論の一つが「持続可能な」社会でしょう。

「環境」を考えることは、「今」・「ここ」という我々の生活に限定されない次世代に渡るコミュニケーションでもあります。

キーワード /Keywords

人間生活と社会経済、制度、関係、アクター、利益、費用と便益、政策過程

政策評価論III 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語・主に理論）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 古川俊一・北大路信郷（2004）『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- 小塩隆士（2012）『効率と公平を問う』日本評論社
- ステイーブン P.ロビンズ[高木晴夫訳]（2009）『新版組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

ほか、受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【行政組織と行政評価】
- 8回 受講生の研究報告【リサーチ・クエスチョン】【仮説】
- 9回 文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
- 10回 文献輪読【欧米諸国における行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【日本の地方自治体における行政評価の先進事例研究】
- 12回 文献輪読【日本の中央省庁における行政評価の先進事例研究】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえうえでの議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策評価論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語・主に実証分析）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 古川俊一・北大路信郷（2004）『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- 松田憲忠・竹田憲史（2012）『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
- 小塩隆士（2012）『効率と公平を問う』日本評論社
- 赤井伸郎（2006）『行政組織とガバナンスの経済学：官民分担と統治システムを考える』有斐閣

ほか受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】【リサーチ・クエスチョン】【仮説】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【評価における統計的分析】
- 8回 受講生の研究報告【先行研究との関連】【分析の進捗】
- 9回 文献輪読【公的部門における評価基準・評価手法の検討】
- 10回 文献輪読【日本の地方自治体を中心とした行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【外部評価制度の事例研究】
- 12回 文献輪読【外部評価制度の問題点】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえうえでの議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政治経済学Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済パフォーマンスや人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する（諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など）。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

*比較政治経済学「I・II」と「III・IV」の違いは、「III・IV」では「I・II」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

*比較政治経済学Ⅳとの違いは、Ⅲは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してⅣはⅢの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

教科書 /Textbooks

Anton Hemerijck, Changing Welfare States (Oxford: Oxford University Press, 2013).

(なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前に読み終えて授業に臨む。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長、平等、福祉国家; 3. 福祉国家の進化・適応; 4. 福祉国家をめぐる政治経済; 5. 社会福祉政策が直面する21世紀の問題; 6. 福祉国家の変化・改革; 7. 福祉政策の調整; 8. 福祉国家の効果・影響—経済成長、生産性の成長; 9. 福祉国家の効果・影響—雇用、失業、長期失業; 10. 福祉国家の効果・影響—所得分配、格差、貧困; 11. 福祉国家の自律的持続性; 12. 投資的福祉政策—教育、労働訓練; 13. 投資的福祉政策—家族支援、再分配; 14. 小括; 15. まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解・授業での発言参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進捗や受講学生の学習の進捗を見て学期中に決める。研究論文の場合、研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストを行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政治経済学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。(比較政治経済学Ⅲとの違いは、Ⅲは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してⅣはⅢの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。)政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。(政策問題の例：失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策)

*比較政治経済学「Ⅰ・Ⅱ」と「Ⅲ・Ⅳ」の違いは、「Ⅲ・Ⅳ」では「Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

教科書 /Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ比較政治経済学Ⅲで使用しているテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、Ⅳを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果をもとに、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週の具体的なトピックは、第1・2週の授業の中で相談の上決める。

1. 導入
2. 問題設定
3. 運営計画策定
4. 報告Ⅰ [First Topic]
5. 考察、批評、提言Ⅰ [First Topic]
6. 報告Ⅱ [Second Topic]
7. 考察、批評、提言Ⅱ [Second Topic]
8. 報告Ⅲ [Third Topic]
9. 考察、批評、提言Ⅲ [Third Topic]
10. 報告Ⅳ [Fourth Topic]
11. 考察、批評、提言Ⅳ [Fourth Topic]
12. 中間報告
13. 考察、批評、提言
14. 再分析、再考察、最終作業Ⅰ
15. 再分析、再考察、最終作業Ⅱ [Continued from Week 14]

*Topics vary, depending on the interests of students.

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)授業参加における積極性や質が40%、(2)調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講義で得た知識をベースに授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

比較政治経済学Ⅳ 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

NPO・社会起業論II【夜】

担当者名 /Instructor 古田 稔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現在、これまでにないスピードで社会が変化し、明治近代国家誕生後の既存の行政システムでは社会の様々な問題点に対処できなくなっています。特に政府、地方自治体は公的サービスの提供に限界が見えてきています。こうした中で地域社会においてNPOや社会起業家が活発に活動しています。こうした活動の背景と組織経営の実態及び課題を理解し、NPO・社会起業家の使命から設立、経営、業績評価等について授業を進めます。先進国、発展途上国で成功しているNPO、社会起業の個別事例を通して、それぞれの活動使命、運営事情を理解し、ヒト・モノ・カネ・情報の面からみたマネジメントの課題、ならびに組織における“ひと”、“働くこと”について検討し、市民一人ひとりが、社会を変革しうるベンチャーキャピタリストとして、具体的にどんな社会性のある事業ができるのかを考察します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回：[市民の自立]とNPO法施行から現在まで
- 2 回：NPOの歴史の変遷と[NPO法人制度]
- 3 回：[市民の自立]とNPO 福岡県、北九州市、福岡市の場合
- 4 回：[NPOと政府、企業]との[協働] 福岡県、北九州市の事例と失敗
- 5 回：[ミッション]からの起業
- 6 回：[コミュニティ]からの起業
- 7 回：[社会事業]と[コミュニティの再生]
- 8 回：[社会起業家の社会的使命]と経営戦略
- 9 回：[社会起業家のリーダーシップ]と組織運営の実際
- 10 回：[社会起業のマネジメント(資金、計画、評価)]の実際
- 11 回：[社会起業の事業プラン]の作成
- 12 回：コンプライアンス(Compliance) / 内部統制
- 13 回：[社会的企業(ソーシャルエンタープライズ)]
- 14 回：[社会的使命]と経営戦略
- 15 回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会に対する問題意識を持って、NPO、社会起業家を考察してください。

履修上の注意 /Remarks

社会の諸事情、方向性、問題のさまざまな角度から「NPO」「社会起業家」が捉えられるように、新聞、雑誌の記事、解説記事、テレビのニュースを、読み込んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO NGO 特定非営利活動法人 ボランティア NPO支援税制 社会貢献 協働 コミュニティ ミッション
社会起業家 Social Entrepreneur 社会企業 Social Enterprise 社会変革 Social innovation

途上国開発論特別研究II 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

修士課程での学習・研究の集大成として位置づけられる修士論文の作成の指導を行う。領域は開発途上国の開発問題や社会問題、ESDや環境教育・開発教育などである。具体的には、テーマの設定の仕方、調査方法、参加型学習法、章構成の作り方、結論への導き方などの指導を重点的に行う。それにより、課題発見・追求能力、論理構成力や論文作成能力が醸成される。

教科書 /Textbooks

- * 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社新書、2009年、720円
- * その他 その都度指示・配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 関係する新聞や雑誌記事などをその都度配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 修士論文についての説明	第2回 修士論文のテーマの設定について
第3回 修士論文のねらいの確定	第4回 修士論文の論旨と構成について
第5回 調査方法と資料収集(文献調査)	第6回 調査方法と資料収集(面接調査)
第7回 調査方法と資料収集(標本調査)	第8回 標本調査の分析について
第9回 修士論文の注記について	第10回 修士論文の参考文献について
第11回 修論の進捗状況(はじめに)	第12回 修論の進捗状況(1章前半)
第13回 修論の進捗状況(1章後半)	第14回 修論の進捗状況(2章前半)
第15回 修論の進捗状況(2章後半)	第16回 修論の進捗状況(3章前半)
第17回 修論の進捗状況(3章後半)	第18回 修論の進捗状況(4章前半)
第19回 修論の進捗状況(4章後半)	第20回 修論の進捗状況(5章前半)
第21回 修論の進捗状況(5章後半)	第22回 修論の進捗状況(おわりに)
第23回 全体構成の再確認	第24回 全体構成と論旨の再検討
第25回 修論1章の再発表(修正付き)	第26回 修論2章の再発表(修正付き)
第27回 修論3章の再発表(修正付き)	第28回 修論4章の再発表(修正付き)
第29回 修論4・5章の再発表	第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加への態度...50% 調査方法や執筆内容の正確さ・緻密さなど...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士課程の集大成であるので、議論が的確にできるように準備を怠らないこと。参加型調査手法を取る学生は、できるだけ足しげく現場に足を運ぶこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文献ばかりを扱うだけでなく、現場を重視する政策学を志向するために、参加型調査手法をできるだけ採り入れてほしい。

キーワード /Keywords

修士論文 テーマ設定 論理構成力 参加型調査手法

公共政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

公共政策もしくは地域公共政策の論文指導を行う。具体的には、テーマの選定からリサーチ・クエスションのたてかた、及び仮説のたてかた、さらに量的分析・質的分析の説明から論文執筆に際して注意すべき点、引用注の付け方まで、順を追って修士論文の作成の仕方について指導していく予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせてその都度決定していくが、とりあえずは以下のようなスケジュールで進める予定です。

- 第1回 導入
- 第2回 修士論文作成に際しての心得
- 第3回 テーマの選定について
- 第4回 リサーチクエスションをたてる
- 第5回 仮説をたてる
- 第6回 文献調査について(1)-図書館等の使い方
- 第7回 文献調査について(2)-邦語文献の収集
- 第8回 文献調査について(3)-外国語文献の収集
- 第9回 第一次文献リストの作成
- 第10回 量的調査
- 第11回 質的調査
- 第12回 テーマの(仮)決定
- 第13回 論文の構成について
- 第14回 論文の書き方-引用注の付け方等について
- 第15回 論文の体裁についての指導
- 第16回 テーマ設定、調査方法などに関する論評及び修正
- 第17回 先行研究の検討
- 第18回 先行研究及び関連研究の検討
- 第19回 先行研究と自らの研究の検討(先行研究のどこを乗り越えるのか)
- 第20回 調査方法の検討
- 第21回 調査票等の作成
- 第22回 調査の設計
- 第23回 調査の実施
- 第24回 調査結果の整理
- 第25回 調査結果の報告
- 第26回 中間報告の準備
- 第27回 中間報告
- 第28回 中間報告の論評・修正
- 第29回 最終報告
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

公共政策論特別研究II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示した箇所は必ず前もって検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会科学、政策研究の調査方法、データ収集、論理構成と論文の書き方の学習。

- ①レポートや論文作成に向けた調査方法、データ収集方法について勉強する。
- ②社会現象から、科学的事実、データ、社会的解釈、概念構成、価値などの論理構成について勉強する。
- ③論文の書き方と発表方法などについて知ってもらう。

専門知識の活用能力を高める。

- ①政策事例の選定と理解、知識を深める。
- ②受講者の研究テーマ、政策事例に関する調査を行い、レポート、論文を作成する。

教科書 /Textbooks

『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（伊藤 修一郎著 東京大学出版会 ¥2,940）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会科学のリサーチ・デザイン-定性的研究における科学的推論』（G.キング外著 真淵勝監修 勁草書房 ¥3,990）
- 『ケース・スタディの方法』（ロバート K.イン著、近藤公彦訳 千倉書房 ¥3,675）
- 『社会学研究法 リアリテイの捉え方』（今田 高俊著 有斐閣アルマ ¥2,415）
- 『社会調査のための統計学 -生きた実例で理解する』（神林博史著 技術評論社 ¥2,079）

その他、受講者の研究テーマに合わせ、政策過程、環境関連の論文や著作を選定し議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介、関心テーマなどの共有
- 第2回 政策リサーチ入門【社会現象と科学】
- 第3回 政策リサーチ入門【研究目的と設計】
- 第4回 政策リサーチ入門【データ収集方法】
- 第5回 社会科学のリサーチ・デザイン【定性的研究】
- 第6回 社会科学のリサーチ・デザイン【科学的推論と仮説】
- 第7回 社会科学のリサーチ・デザイン【歴史的方法と事例選定】
- 第8回 社会学研究法 リアリテイの捉え方【価値と事実】
- 第9回 社会学研究法 リアリテイの捉え方【研究方法の選定と設計】
- 第10回 社会学研究法 リアリテイの捉え方【調査方法】
- 第11回 社会調査のための統計学【回帰分析】
- 第12回 社会調査のための統計学【重回帰分析】
- 第13回 社会調査のための統計学【相関分析】
- 第14回 ケース・スタディの方法【単一研究】
- 第15回 ケース・スタディの方法【比較研究】
- 第16回 ケース・スタディの方法【単一方法の事例】
- 第17回 ケース・スタディの方法【比較事例：環境】
- 第18回 ケース・スタディの方法【比較事例：他事例】
- 第19回 関連論文の考察【量的研究の事例】
- 第20回 関連論文の考察【量的研究】
- 第21回 関連論文の考察【質的研究】
- 第22回 関連論文の考察【質的研究の事例】
- 第23回 関連論文の考察【単一研究】
- 第24回 関連論文の考察【単一研究】
- 第25回 関連論文の考察【単一研究】
- 第26回 受講者の研究テーマ関連の論文【問題意識】
- 第27回 受講者の研究テーマ関連の論文【方法論】
- 第28回 受講者の研究テーマ関連の論文【論文構成と論理】
- 第29回 受講者の研究テーマ関連の論文【討論と結論】
- 第30回 まとめ

環境政策論特別研究II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告 (80%)、レポート (20%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞記事や社説を読み、社会現象 (事象)、社会的事実、データ (収集方法・調査方法)、仮説、科学的推論、社会的解釈、論理構成などを調べる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リアリティの捉え方、リサーチ・デザイン、科学的推論、仮説と仮説検証、論理構成と社会的解釈、政策事例。

比較政治経済学特別研究II 【夜】

担当者名 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書 /Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文作成者の分野が判明するまでなし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適切な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即時始める。それがある程度終わった後、研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II (応用)
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II (応用)
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II (応用)
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II (応用)
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII (応用)
14. 小括
15. まとめ
16. 導入
17. 問題設定
18. 運営計画策定
19. 報告I
20. 考察、批評、提言I
21. 報告II
22. 考察、批評、提言II
23. 報告II
24. 考察、批評、提言II
25. 報告III
26. 考察、批評、提言III
27. 中間報告
28. 考察、批評、提言
29. 再分析、再考察、最終作業I
30. 再分析、再考察、最終作業II

成績評価の方法 /Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の内容・スケジュールに書かれていることを実行する。

比較政治経済学特別研究II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

地域政策特定課題研究II 【夜】

担当者名 榎原 真二 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域公共政策、NPO、市民参加等に関する論文(特定課題研究)の指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は、受講生によって異なる。以下はあくまで一つの例として示した授業計画である。

- 第1回 導入
- 第2回 論文作成の基本的作業について
- 第3回 テーマを決める
- 第4回 先行研究の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 リサーチ・クエスチョンをたてる
- 第7回 仮説をたてる
- 第8回 ケース・スタディ(1)-ケース・スタディとは何か
- 第9回 ケース・スタディ(2)-どのような時にケース・スタディを使うのか
- 第10回 ケース・スタディ(3)-政策過程研究とケース・スタディ
- 第11回 ケース・スタディ(4)-まちづくりとケース・スタディ
- 第12回 ケース・スタディ(5)-比較研究とケース・スタディ
- 第13回 ケース・スタディ(6)-公共政策研究とケース・スタディ
- 第14回 ケース・スタディ(7)-ケース・スタディにおけるすぐれた事例研究の検討
- 第15回 1学期のまとめ

- 第16回 質的調査と量的調査
- 第17回 質的調査(1)-フィールドワーク
- 第18回 質的調査(2)-聞き取り調査
- 第19回 質的調査(3)-参与観察法
- 第20回 調査票を作成する
- 第21回 サンプリングについて
- 第22回 量的調査の実施と分析方法
- 第23回 クロス表を作成する
- 第24回 統計的検定について
- 第25回 実際に調査を設計する
- 第26回 調査をまとめる
- 第27回 論文の構成について
- 第28回 引用注、参考文献リスト等について
- 第29回 推敲の必要性について
- 第30回 年間講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、次に発表する部分のレジュメの作成等を行って講義にのぞんでいただきたい。

履修上の注意 /Remarks

地域政策特定課題研究II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政策特定課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 他

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期(バ
ア) 授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

比較政策分野を対象に、修士課程の集大成として修士論文もしくは特定課題論文執筆の指導を行う。具体的には、テーマの設定の仕方、調査方法、参加型学習法、章構成の作り方、結論への導き方などの指導を重点的に行う。それにより、課題発見・追求能力、論理構成力や論文作成能力が醸成される。

教科書 /Textbooks

- * 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社新書、2009年、720円
- * その他 その都度指示・配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度配布する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-----------------------------|
| 第1回 比較政策についての議論を得たのちに、修士論文もしくは特定課題論文についての説明 | 第3回 修論の説明(ねらいについて) |
| 第2回 修論の説明(テーマ設定) | 第5回 修論の説明(調査方法:面接調査) |
| 第4回 修論の説明(調査方法:文献調査) | 第7回 標本調査の分析について |
| 第6回 修論の説明(調査方法:標本調査) | 第9回 修論の説明(注記について) |
| 第8回 修論の説明(章構成と論旨) | 第11回 進捗状況の発表(はじめに) |
| 第10回 修論の説明(参考文献について) | 第13回 進捗状況の発表(1章後半) |
| 第12回 進捗状況の発表(1章前半) | 第15回 進捗状況の発表(2章後半) |
| 第14回 進捗状況の発表(2章前半) | 第17回 進捗状況の発表(3章後半) |
| 第16回 進捗状況の発表(3章前半) | 第19回 進捗状況の発表(4章後半) |
| 第18回 進捗状況の発表(4章前半) | 第21回 進捗状況の発表(5章後半) |
| 第20回 進捗状況の発表(5章前半) | 第23回 全体構成の再確認(注記、参考文献を入れて) |
| 第22回 進捗状況の発表(おわりに) | 第25回 修論原稿の再発表(2章) |
| 第24回 修論原稿の再発表(はじめにと1章) | 第27回 修論原稿の再発表(4章) |
| 第26回 修論原稿の再発表(3章) | 第29回 修論原稿の再発表(おわりに、注記と参考文献) |
| 第28回 修論原稿の再発表(5章) | |
| 第30回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...50% 論文内容(論理構成力、分析力など)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査方法は非常に重要なので、様々な文献を読んだりして、できるだけ事前に身に付けておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較政策分野で修士論文や特定課題論文を書く際は、調査方法をできるだけ多岐にして実態を把握する努力をしてください。

キーワード /Keywords

比較政策 修士論文 特定課題論文 参加型調査手法 フィールド(現場)